平成三十年度　第百二十一回

京都大学書道部

初夏書展

日時　平成三十年　六月十六日・十七日

十時～十七時（十七日は受付十六時まで）

場所　建仁寺　西来院・禅居庵

―巻頭に寄せて―

「収穫加速の法則」という言葉をご存知でしょうか。これはテクノロジーの発展が指数関数的であるという法則で、ここ数年の情報技術分野における発展は、この法則におおむね従っています。なかでも最近は「人工知能（AI：Artificial Intelligence）」の進化が目覚ましく、一部の分野では人間の能力をはるかに超えたAIがすでに開発されています。

先日、科学雑誌「Newton」にはAIがレンブラントの画風を学習し、彼の新作を描くことに成功したという記事が掲載されていました。その新作はレンブラント本人が描いたと錯覚させられるほどに、ましてやAIが描いたなどとは夢にも思わないほどに素晴らしいものでした。今までは画像や音声の認識を主としていたAIが、創造的な能力を手にしたといってよいでしょう。

しかし、仮にAIが書の大家である王羲之、米芾、呉昌碩などの書風を学習して新作を書いたら、その「新作」は書道界においてどのような評価をされるでしょうか。中国絵画や書道の世界では、「気」というものが重要視されるといわれています。「気」とはなにかを明確にするのは難しいですが、ここでは精神性や心というものとしておくと、AIによる新作は「気」が存在しません。そう考えると、そんな作品が書道界で評価されるかは議論の余地があるかと思います。

一方、私たち書道部員の作品には豊かな精神性があります。臨書作品ではAIにどんな雰囲気を感じてほしいかを考えながら、構成や字形などに工夫を凝らしているはずです。それらを少しでも感じ取っていただけたら幸いです。

さて、最後とはなりますが今回の初夏書展を無事に開催できるのは顧問の宇佐美文理教授と行友三輪子様、技術顧問の寺本蒼玄先生をはじめとする多くの方々のおかげです。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

そして本日はご多用の中、第百二十一回京都大学書道部初夏書展にご来場くださった皆様、誠にありがとうございます。部員の「気」と工夫に富んだ作品を心ゆくまでごゆっくりお楽しみください。

平成三十年六月吉日

京都大学書道部　部長　中村勇真

王鐸、お好きですか

宇佐美 文理（京都大学大学院文学研究科教授）

王鐸という書家がいます。言うまでもなくビッグネームで、今回の書展でも臨書などを出されている方があるのではと思います。

わたくしは、どうもこの王鐸という人が苦手でした。端的に言えば、「どこがいいのかわからない」ということです。こう書くと、書道を専門にされている人は、「何をねぼけたことを」ときっと思われたに違いありません。

ところが、昨秋、静嘉堂文庫美術館の展覧会「あこがれの明清絵画」に出ている王鐸の「臨王徽之得信帖」を見て、生まれて初めて、王鐸もいいじゃないか、と思ったのです。

藝術作品をどのように評価するかは、極めて個人的な問題です。その作品を、先人が、あるいは現代の偉い評論家の人がいくら「すばらしい」としたからといって、それを鵜呑みにする必要はまったくありません。

ただ、個人的とはいうものの、藝術作品の「理解」は、作者と観者の間にある、共通の認識をベースにしており、それを共有できないと「完全な鑑賞」には至らない、というのも事実です。

バッハの音楽やレンブラントの絵画は、世界中の誰でも、何の知識がなくても、すばらしさがわかるものだと思います。「宇宙人へのプレゼントにはバッハの全集」とされるのはその故です。もちろん、そこにキリスト教についての知識が加われば、より深い理解が得られるでしょう。しかし、それを知らなくても、端的には「キリスト者でなくても」、バッハとレンブラントのすばらしさはわかります。これは藝術作品のもつ「普遍性」を示すとも言えるでしょうか。

ところが中国の書画には、とりわけその「共通認識」が複雑に存在します。あるいは文学でもそうですが、その認識がないと、そもそも理解できない、という側面を持っています。

わたくしが王鐸の良さがわからなかったのは、「書道史」の理解が足りなかったのだ、ということもできるかもしれません。いや、そもそも「書」がわかっていなかったのでは。

しかし、ならばどうして静嘉堂の王鐸を「いいじゃないか」と思ったのでしょう。そう考えてみると、やはり書にも、純粋な視覚藝術の側面があるのではないか、と思うのです。

実は静嘉堂に行った日の午後、都内の別の美術館に行って、そこでも王鐸を見たのですが、やはり「？」でした。書は難しいですね。

部屋に飾る作品（三）

寺本蒼玄

今回は半切の作品について話をします。

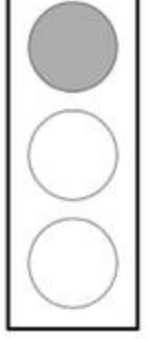
まず、一行縦書の作品について。

一般的に多くの作品が、この形式で書かれています。

紙のサイズをそのままならば、四字句、五字句が適しています。文字の大小や、潤渇の変化を楽しめるのは、五字句が良いでしょう。

この場合、中央のヤマ場が二字目と三字目の二つが作品効果を表現し易いと思います。

二字目

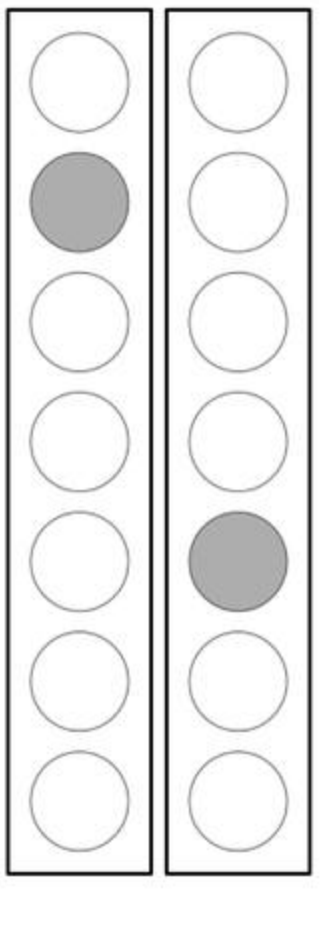


三字目

では、六字句以上十字句までの字数の作品はどうでしょうか。その場合は、紙の幅のサイズを細長くカットして、余白を美しく見えるようにした方が良いと思います。

私は以前、よく七言対句の作品を対聯にして書いていました。この場合は二幅で一つの作品として飾りますので、一幅の紙幅サイズを五センチ程カットして、細長くして行草書の単体作品を書いていました。

文字の収め方は、半切二行書のように、二行目の二、三字目にヤマ場をつくるように書いていました。



清代以降の中国では、この対聯形式の作品が数多く書かれていて、大変参考になりました。

二行書の行草書の作品を書いている方は、このような作品を参考にしてみると良いと思います。

臨書と創作

○臨書

過去の優れた筆跡を手本として書くことです。

臨書は段階や態度によって三種類に分けられます。最初のステップは、古典の字形や用筆に迫ろうとする、「形臨」と呼ばれるものです。形をまねることは、その古典に迫る最も近い方法です。

形がある程度まねられるようになってくると、次は古典に漂う雰囲気や運筆のリズムなど、形以外の要素に重点をおいてとらえようとする「意臨」の段階に進むことができます。このような、形以外の要素をとらえようとする態度は、真筆が歴史の中で失われ、模写したものや拓本しか残っていないような古典を臨書する際に求められることがあります。

古典をよく学んだうえで、書くときはそれを見ないで書く方法を「背臨」、臨書を重ねた後、臨書から学び取った古典の特徴や表現方法などを生かして、その古典とは別の字句を書くことを「倣書」といいます。この態度は創作につながるステップとなります。

書のあらゆる作品は、このような過去の作品から学ぶことを基盤としています。書道における基本と呼べるものが、臨書なのです。

○創作

自らの創意工夫による書の表現をいいます。

自分が伝えたいこと、表現したいことを明確にして、それに合った素材（語句や詩文）や表現方法を選び、試行錯誤しながら、自分の主張や個性が表れた作品になることを目指します。

臨書によって古典から得られる様々な表現方法を用いることで、作品に味わいや深みを出すことが出来るようになります。

○法帖

芸術作品として残された個人の書を、石や木に刻して拓本をとり、臨書や鑑賞に便利なように帖仕立てにしたものです。

今回の冬樟展では、各臨書作品の右横に臨書した箇所の法帖を掲示して、皆様にご覧いただけるようにしています。

作品鑑賞の参考に、こちらも是非ご覧ください。

書体について



『篆書』
漢字のもっとも古い形で、現在使われている漢字のもとになった字体です。秦朝に小篆として統一されたものが一般的です。均一な太さの線が特徴です。



『隷書』
役人が複雑な字形だった篆書を早書きした際生まれた字体です。字形は横長で、時代が進むにつれ、線の終わりに独特な「波磔」がみられるようになります。



『楷書』
隷書からさらに記号化された、バランスの取れた字体です。その整った字形から、現在の漢字の基本とされています。

『行書』
隷書から発展した字体で、点画や線にしなやかさと変化がみられます。筆の速度や点画の流れが最も重視される書体といえます。

『草書』
隷書を早書きすることから発展しました。線の省略や筆順に変化があり、自由度の高い作品となります。文字から文字へと流れる「連綿」の美しさも魅力です。



『かな』
日本独特の表音文字です。草書の簡略化によって生まれました。漢字にはない流麗な筆致と同じ音を表す複数のかな、「変体仮名」による創意工夫が魅力です。



『調和体』
日本語の近代詩文や現代詩などを題材に、誰にでも親しみやすい書体で書いたものです。漢字かな交じりという日本語独自の特徴を生かした作品形態です。

書家説明集

文責：平井達也

➢ 欧陽詢（おうようじゅん）（557~641 【隋～唐】）

王羲之（おうぎし）から強く影響を受けた初唐の三大家の一人です。彼はどのような書体でも巧みに書きましたが、特に楷書を得意としました。代表作**『九成宮醴泉銘』**（臨：吉田）は緻密な造形性と拡張の高さから「楷書の極則」と言われ、日本では昭和時代には小中学校の教科書の手本として取り入れられました。

その他の臨書作品：中村勇『行書千字文』

➢ 褚遂良（ちょすいりょう）（596~658【隋～唐】）

彼もまた初唐の三大家の一人です。欧陽詢（上記）の書法を学び、やがて「褚法（ちょほう）」と呼ばれる独自の書法を確立しました。代表作**『雁塔聖教序』**（臨：建部、中林）は楷書の最高傑作の一つと言われ、線に変化のある躍動的な書が魅力です。

その他の臨書作品：吉岡『枯樹賦』、坂本『孟法師碑』

➢ 顔真卿（がんしんけい）（709~785【唐】）

王羲之以来の爽やかな書法に反発し、蔵峰（筆の穂先を隠す技法）を用いた「顔法（がんぽう）」と呼ばれる力強くも穏やかな独自の書法を確立しました。王羲之を正統とする書道界で彼が評価され始めたのは最近のことです。上記の欧陽詢、褚遂良、そして**虞世南**（ぐせいなん/臨：挟間）と共に唐の四大家と言われることもあります。（臨：牛田、野田）

➢ 王鐸（おうたく）（1592~1652 【明～清】）

彼は現代書道において絶大な人気を誇っています。条幅とよばれる細長い紙に連綿（字と字をつなげて書く技法）を多用して書かれる行草書が特徴的です。彼の作品は、臨書と自運（自作の詩を書く）に大別され、臨書は先代の作品を極めて奔放に書いたものが多いですが、自運は謹厳な行書で書かれたものが多くなっています。（臨：木下、角、安達）

➢ 鄧石如（とうせきじょ）（1743~1805【清】）

彼はあらゆる書体の作品を残していますが、特に篆書・隷書は**曹全碑**（臨：勝野、金岡）のような昔の碑文を繰り返し臨書することで技法を身につけ、「碑学派の祖」と呼ばれました。この碑学派の流れを**呉熙載**（ごきさい/臨：鵜川、越田、松尾）や楊峴（下記）が発展させていきました。（臨：今村、松尾）

➢ 楊峴（ようけん）（1819~1896 【清】）

彼は隷書が流行った清代において個性的な隷書を確立しました。特徴は穂先の微動によって変化に富んで生き生きとした線、そして独特で強烈に誇張された波磔表現（はたく/右はらいに似た装飾）です。**呉昌碩**（ごしょうせき/臨：山科）は彼の魅力に取りつかれ、頼み込んで弟子にしてもらったといいます。（臨：阿部、勝野、平井、市川）

作品一覧

技術顧問

寺本蒼玄　創作・『博學而不窮』……10
　　創作・『其中有至樂』……10

二回生

石本森羅　臨書・鄭道昭『鄭羲下碑』……18
　　創作・『早發白帝城』……28
市川拓真　臨書・楊峴『臨衡方碑』……28
鵜川大輝　創作・『良岑安世詩　暇日閑居』……12
牛田聡実　臨書・顔眞卿『多宝塔碑』……19
大橋葵　臨書・空海『風信帖』……28
越田真由　臨書・作者不詳『木簡』……31
坂本和歌子　臨書・褚遂良『孟法師碑』……20
中岡大吉　臨書・黄庭堅『顔師古幽蘭賦』……20
　　創作・『火花』……32
中林亮　臨書・褚遂良『雁塔聖教序』……20
野田恵子　臨書・顔真卿『建中告身帖』……32
松尾有輝也　臨書・鄧石如『篆書白氏草堂記六屏』……34
安田直記　臨書・橘逸勢『伊都内親王願文』……34
吉田凌祐　臨書・欧陽詢『九成宮醴泉銘』……23
　　臨書・伝藤原行成『升色紙』……35

三回生

安達光寿　臨書・王鐸『容易語』……11
覚道直治　臨書・孫過庭『書譜』……29
勝野初紀　臨書／創作・『温故知新』……29
金岡杏祐　臨書・作者不詳『曹全碑』……18
金山優作　臨書・何紹基『臨金文巻』……30
　　臨書・何紹基『七言聯』……12
邢書禹　臨書・啓成『桃花庵歌』……28
佐山侑莉　創作・『終南山』……13
建部壮一郎　臨書・褚遂良『雁塔聖教序』……31
中村勇真　臨書・欧陽詢『行書千字文』……14
野田智子　臨書・王一亭『杜甫五律二三』……22
挾間優美　臨書・虞世南『孔子廟堂碑』……15
一二暉生　臨書・良寛『いろは　一行書幅』……14
　　臨書・王守仁『龍江留別』……33
平井達也　臨書・楊峴『白鶴道人』……33
　　創作・『游雲驚竜』……19
村上友梨　臨書・文徴明『行書五律詩』……33
森ちひろ　臨書・黄道周『壬申元日』……35
吉岡智志　臨書・褚遂良『枯樹賦』……16
　　臨書・楊峴『易林語』……18
　　臨書・鄧石如『隷書崔子玉座右銘』……18

四回生

阿部朱夏　臨書・楊峴『臨金文巻』……30
今村朱里　臨書・米芾『蜀素帖』……19
浦川真由子　臨書・王献之『洛神賦十三行』……30
郡健一郎　創作・『愚公移山』……19
小林由佳　臨書・王鐸『高適詩』……31
角裕介　創作・『香積寺に過る』……13
仲村康太郎　臨書・作者不詳『司馬昞墓誌銘』……32
中村直樹　臨書・伝紀貫之『高野切第三種』……21
橋詰都　創作・『夏雲奇峰』……21
平野晶子　臨書・嵯峨天皇『光定戒牒』……22
　　創作・『諸葛亮誡子書』……33

頁番号

修士一回生

木下有羽　臨書・王鐸『引匡巒弟重至靈山鳳崖詩』……30
矢野凱己　創作・『夏と秋と』……34
山口和樹　創作・『寿雲』……35
山科直也　創作・『答人』……23
　　臨書・呉昌碩『七言絶句幅』……35

修士二回生

荒巻拓哉　創作・『懸崖撒手』……28
上西隆太　創作・『旅興』……11
宗哲仁　臨書・王羲之『喪乱帖』……13

博士課程修了

藤井基弘　創作・『松』……23

合作

鵜川大輝／越田真由／松尾有輝也
　臨書・呉熙載『楷書東方朔画賛四屏』……24
市川拓真／小池莉穂／中岡大吉／森ちひろ
　創作・『僕が僕のすべて』……24
市川拓真／坂本和歌子／安田直記／中村勇真
　臨書・三井親和『詩書屏風』……37
金山優作／佐山侑莉
　創作・『静と動』……36
挾間優美／森ちひろ
　創作・『篆隷千字文』……25
中村勇真／平井達也
　創作・『祇園』……25
金山優作／佐山侑莉／中村勇真／平井達也
　創作・『花鳥風月』……25
安達光寿／角裕介／仲村康太郎
　創作・『「つみ」な男たち』……36
金山優作／阿部朱夏
　創作・『あぁ、人生に涙あり』……36
矢野凱己／山口和樹
　創作・『月光』……27
石本森羅／中村勇真／小林由佳／矢野凱己／宗哲仁
　創作・『幾度目かの初夏に寄せて』……17

新入生合作　『自分を表す言葉』……27
二回生合作　『他己紹介』……27
三回生合作　『乙亥雑詩』……27
全体合作　『書道史年表』……27

作品紹介

賛助作品

技術顧問　寺本蒼玄　先生

○西来院作品



『博學而不窮』

「博く学びて窮まらず。」

ひろく学問をおさめて、とどまることがない。

今回は軽快に行を流して書いてみました。

○禅居庵作品



『其中有至楽』

「この楽しみにかなうものがない。」

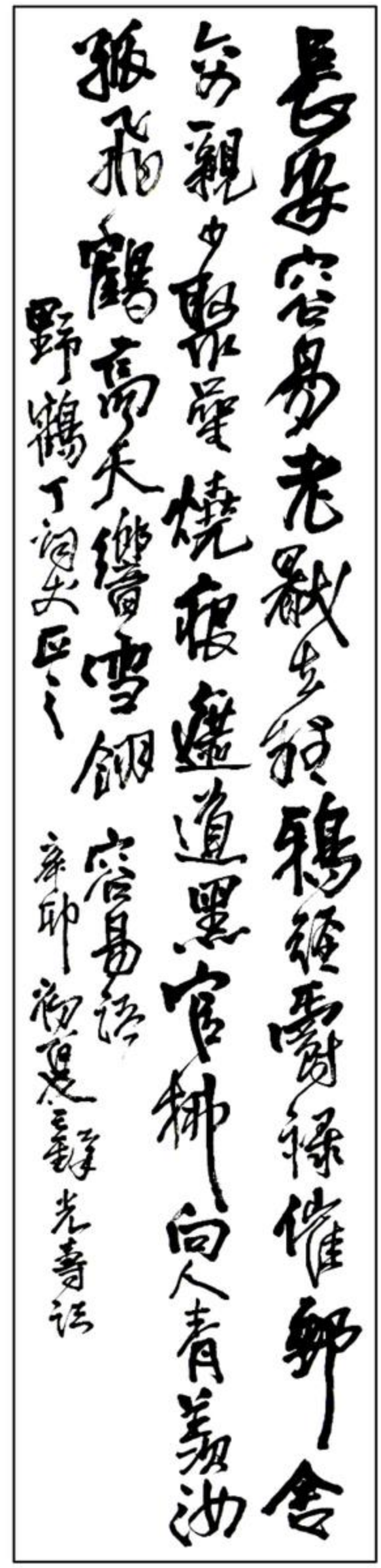
気脈の流れを大切に丁寧に仕上げました。

○西来院

1

安達光寿　三回生
臨書　行書　王鐸『容易語』　二尺×八尺

「長安容易老、厭去疑鴉徑。爵祿催郵舎、交親少聚星。焼痕遮道黒、官柳向人青。羨汝孤飛鶴、高天響雪翎。容易語　辛卯初夏　王鐸（具艸）　野鶴丁詞丈正之」〈Jouis-toi〉汝、享楽せよ。



2

上西隆太　修士二回生
創作　行草書　『旅興』　一尺二尺×八尺

「秋高潦水涸、旻天亦凄清。枯籜響悲音、羈蟲振餘聲。曀曀落日暉、慘慘游子情。風林無定枝、馳車鮮安旌。自媿匪賢達、默默嗟其生。」

元末明初に活躍した劉基の詩を書きました。ところで、私の母校が春の甲子園で準優勝を収めました。特に、準々決勝・準決勝における逆転劇の感動は忘れられません。夏は第百回記念大会。とても楽しみです。



3

鵜川大輝　二回生

創作　行草書　『良岑安世詩　暇日閑居』　二尺×八尺

「暇日除煩想春風讀楚詞簷閑啼鳥換門掩世人稀初笋篁邊出遊絲柳外飛寥々高枕臥庭樹落花時」

王鐸を参考にして創作しました。古典作品を参考にするなかで、今まで見落としていたその良さに気づいたり、凄さを感じることができました。それらを少しだけでも自分の作品で表現できたらなと思います。



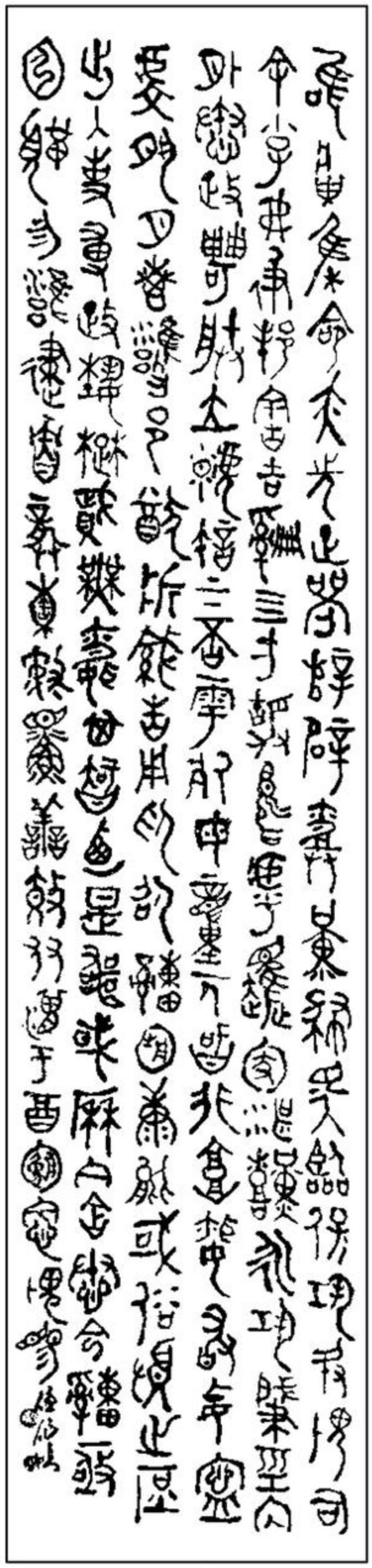
4

金山優作　三回生

臨書　金文　何紹基『臨金文巻』　二尺×八尺

「唯將集命亦先正……（略）」

この作は何紹基が「毛公鼎」を臨書したものです。金文の面白い造形に何紹基アレンジが加わった滑稽さが魅力であり、それをあえて多字数で書くことで雑多な感じと禍々しさを演出しました。



5

佐山侑莉　三回生
創作　行書　『終南山』　二尺×八尺

「太乙近天都　連山到海隅　白雲廻望合　青靄入看無　分野中峰變　陰晴衆壑殊　欲投人處宿　隔水問樵夫」
高校以来の二八創作作品です。あの頃より少しでも成長していれば良いのですが…



6

宗哲仁　修士二回生
臨書　行書　王羲之『喪乱帖』　二尺×八尺

「羲之頓首。喪乱之極。先墓再離荼毒。……（略）」
次回書展への布石として、自らの肥やしにしたいと考え制作しました。

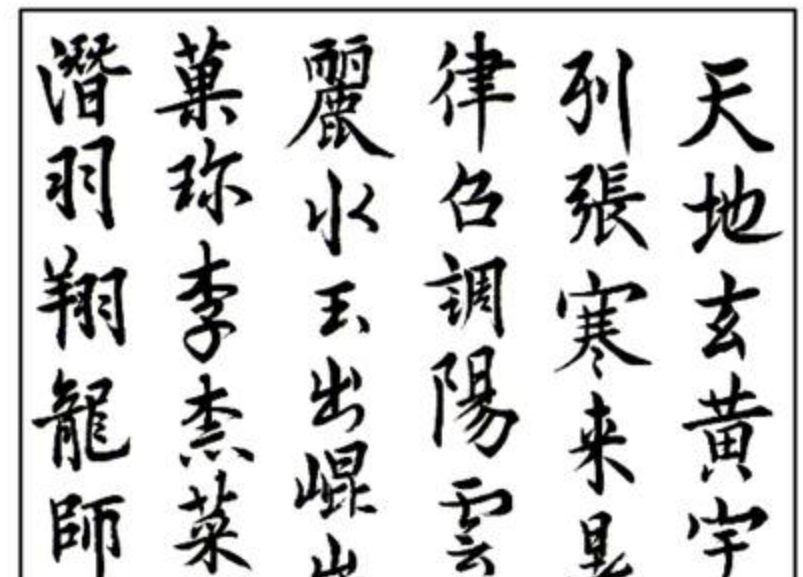


7

中村勇真　三回生
臨書　行書　欧陽詢『行書千字文』　三尺×六尺

「天地玄黄宇宙洪荒日月盈昃辰宿列張寒來暑往秋收冬藏閏餘成歳律呂調陽雲騰致雨露結為霜金生麗水玉出昆岡劍號巨闕珠稱夜光果珍李柰菜重芥薑海鹹河淡鱗潜羽翔龍師火帝」

楷書の大家、欧陽詢の行書千字文を臨書しました。「行書」と銘打たれていますが、ほぼ楷書です。やっぱり楷書の大家の行書は楷書っぽくなってしまうのでしょうか。……僕と同じだ！

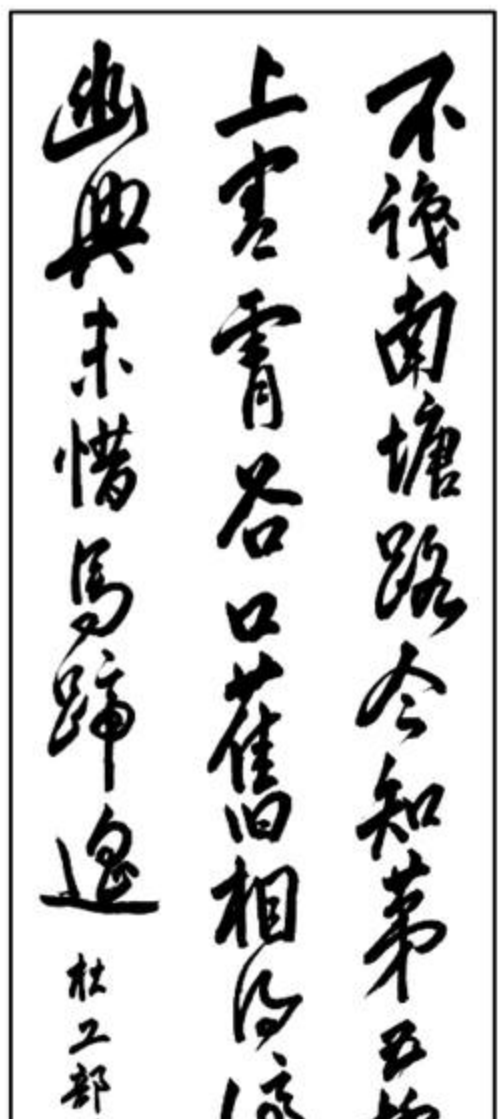


8

野田智子　三回生
臨書　行書　王一亭『杜甫五律行書幅』　二尺×八尺

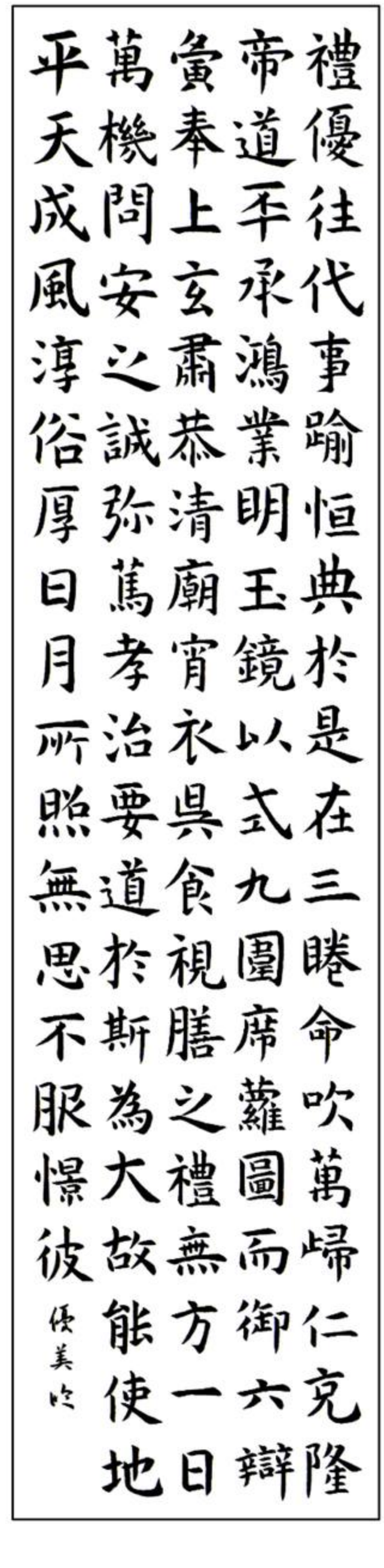
「不識南塘路　今知第五橋　名園依緑水　野竹上青宵　谷口舊相得　濠梁同見招　平生爲幽興　未惜馬蹄遥」

初めての二八の作品です。かっこいい行書が書けるようになりたいと思い、挑戦してみました。字のバランスが取りづらく、納得のいく作品を作るのは難しいものですね。



9

挾間優美　三回生
臨書　楷書　虞世南『孔子廟堂碑』　二尺×八尺


禮優往代事踰恒典於是在三瞻命吹萬帰仁克隆
帝道平承鴻業明玉鏡以弐九圍席蘿圖而御六辯
貪奉上玄肅恭清廟宵衣視膳之禮無方一日
萬機問安之誠弥篤孝治要道於斯為大故能使地
平天成風淳俗厚日月所照無思不服憬彼

侯美吟

「禮優往代、事踰恒典。於是在三瞻命、吹萬帰仁。……（略）」

しなやかで温かみのある字が特徴の孔子廟堂碑。その印象通り優しく受け止めてくれるかと思いきや、臨書するのは大変難しく、もう少し練習しなさいと虞世南から諭されているかのような気分でした。

10

平井達也　三回生
臨書　隷書　楊峴『白鶴道人』　二尺×八尺


白鶴道人皎五立不知其姓氏自言藉和州同治元
年髮逆熾父母遷地寶應始生時父先歿母惸無所
依其姑以穹姑亦夫林君官京師攜入京四年林君
轉外官偕之赴任天津光緒三年道人

戊戌初夏　達也臨

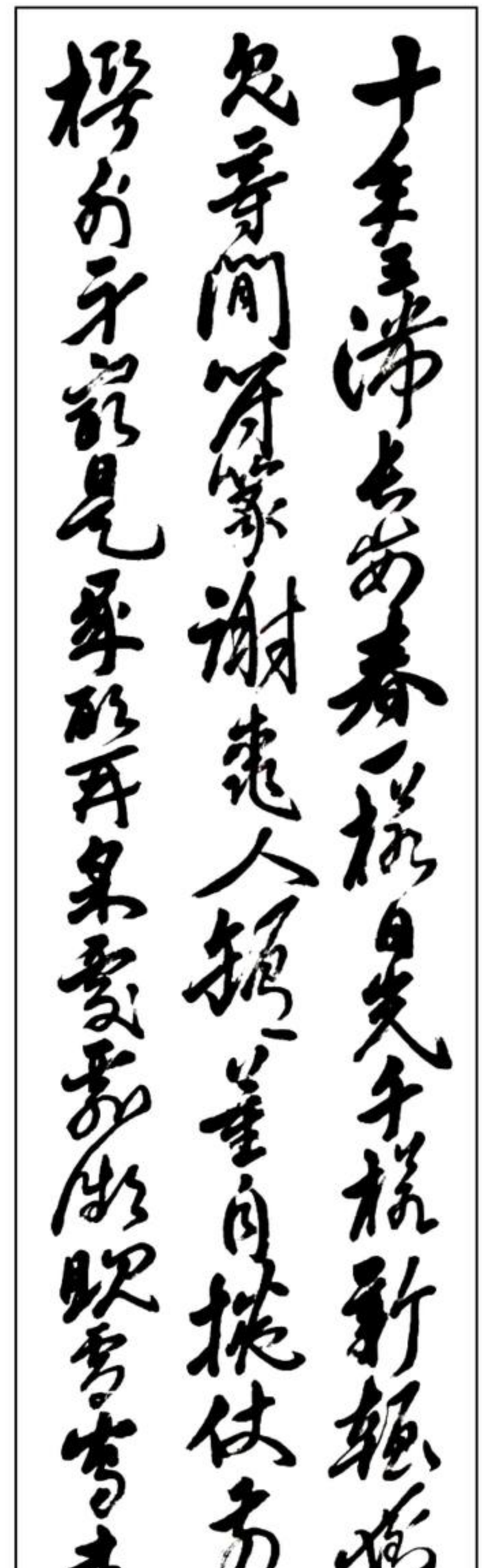
「白鶴道人皎五立不知其……（略）」

「建仁寺西来院の二八ゾーンを美しく彩るのは、書道部を運営する幹部回生の重要な役割だ」とどこかで聞いたような気がします。いつもは意味の分からないものばかり書いている私も今回ばかりはまじめに書道しました。

11

森ちひろ　三回生
臨書　草書　黄道周『壬申元日誌』　二尺×八尺

「十年三滞長安春。一様日光千様新。顛倒佩琚辞竈鬼。等閒符篆桃人。艫薫自捲仗前馬。繖影知軽檻外身。最是歳頭開采処。霏微覗雪写青旻。」この作品を書き始めた頃、百万遍のバス停から見た光景にぴったりの最後の一文がお気に入りです。

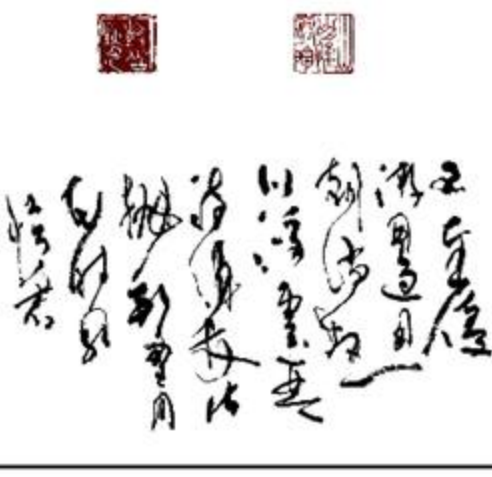


12

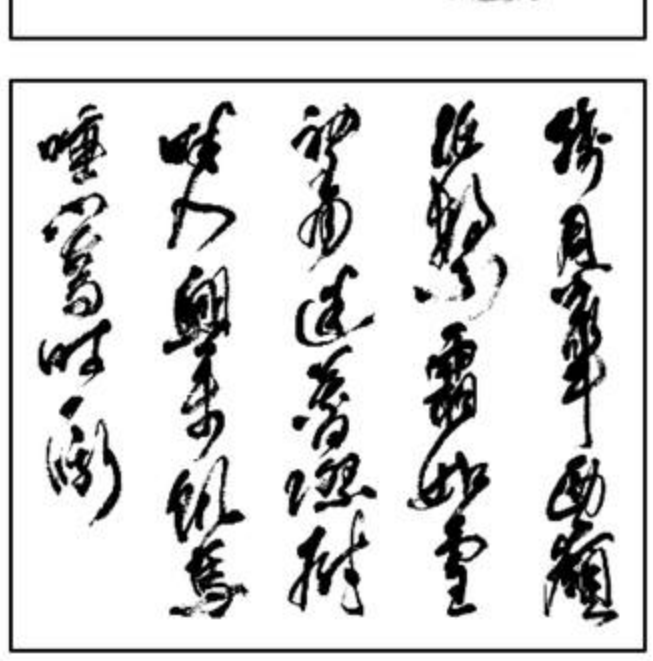
矢野凱己　修士一回生
創作　隷書・かな・篆刻・草書・行草書　『月光』　二尺×八尺

「静寂閑雅／月はやし　こずえはそらを　もちながら／雪月花時最憶君／望／残月半竿西嶺低繁霜如雪望月迷薔際厨畔人興未飢馬唾響時一嘶」ツキがありますように…。（矢野）鬼束ちひろの「月光」めっちゃ沁みるわー。（山口）









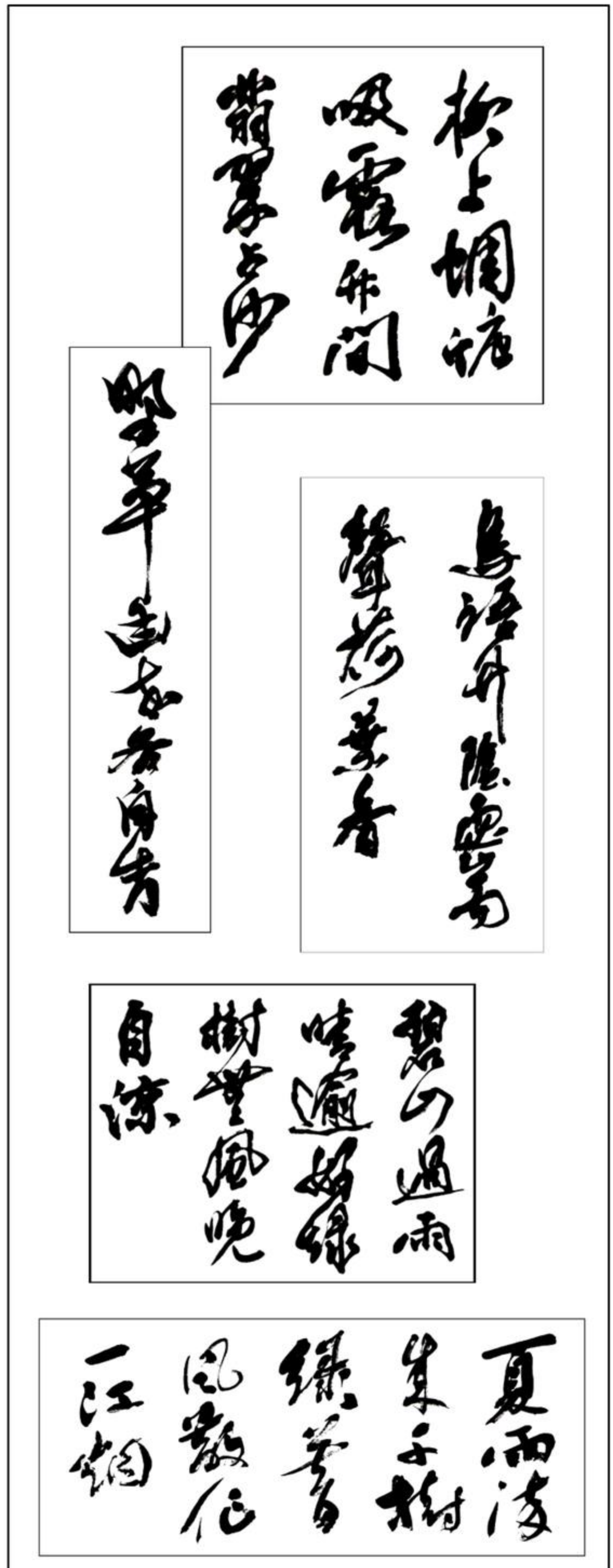
13

石本森羅　二回生　・　中村勇真　三回生　・　小林由佳　四回生　・　矢野凱己　修士一回生　・　宗哲仁　修士二回生

創作　行草書　『幾度目かの初夏に寄せて』　三尺×八尺

「柳上蜩螗吸露竹間翡翠占沙／野草幽花各自香／鳥語竹陰密雨聲荷葉香／碧山過雨晴逾好緑樹無風晩自涼／夏雨染成千樹緑暮風散作一江烟」

世代は違えど、初夏は特別な季節です。



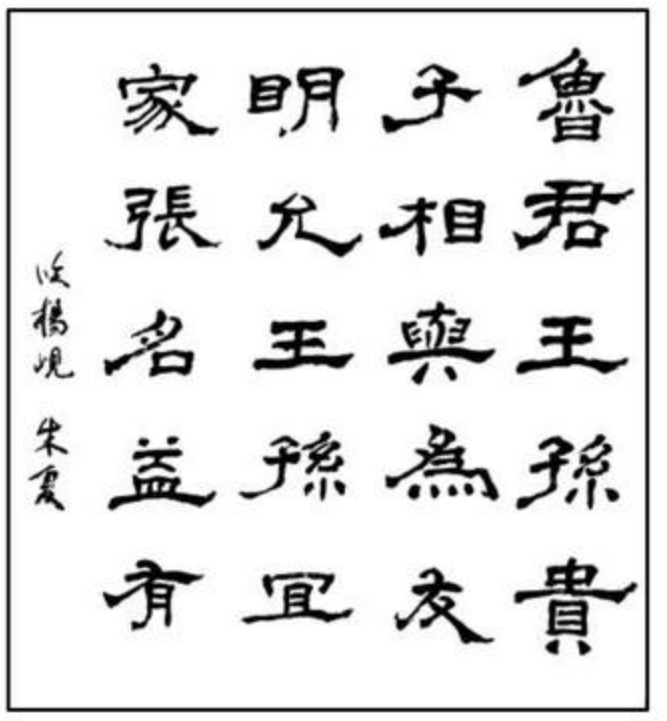
14

阿部朱夏　四回生

臨書　隷書　楊峴『易林語』　二尺×二尺

「魯君王孫貴子相興為友明允王孫宜家張名益有」

ずっと書いてみたいと思っていた楊峴の隷書に遂に挑戦しました。練習不十分で、楊峴特有の線質も到底出せているとは思いませんが、それっぽい雰囲気にはできたと思っているので満足です。楊峴の隷書のような、一筋縄ではいかないようなかっこいい人に私もなりたいですね…



15

石本森羅　二回生

臨書　楷書　鄭道昭『鄭羲下碑』　半切

「積德累仁。慶屆無窮。其熟能傳輝踵美。致」

自然の岩に直接刻された、磨崖の書とよばれる古典の一つです。部内での知名度が意外に高くないので、あえて選んでみました。各々の字が無限の空間をたたえているような、ゆったりとした雰囲気を表現しました。



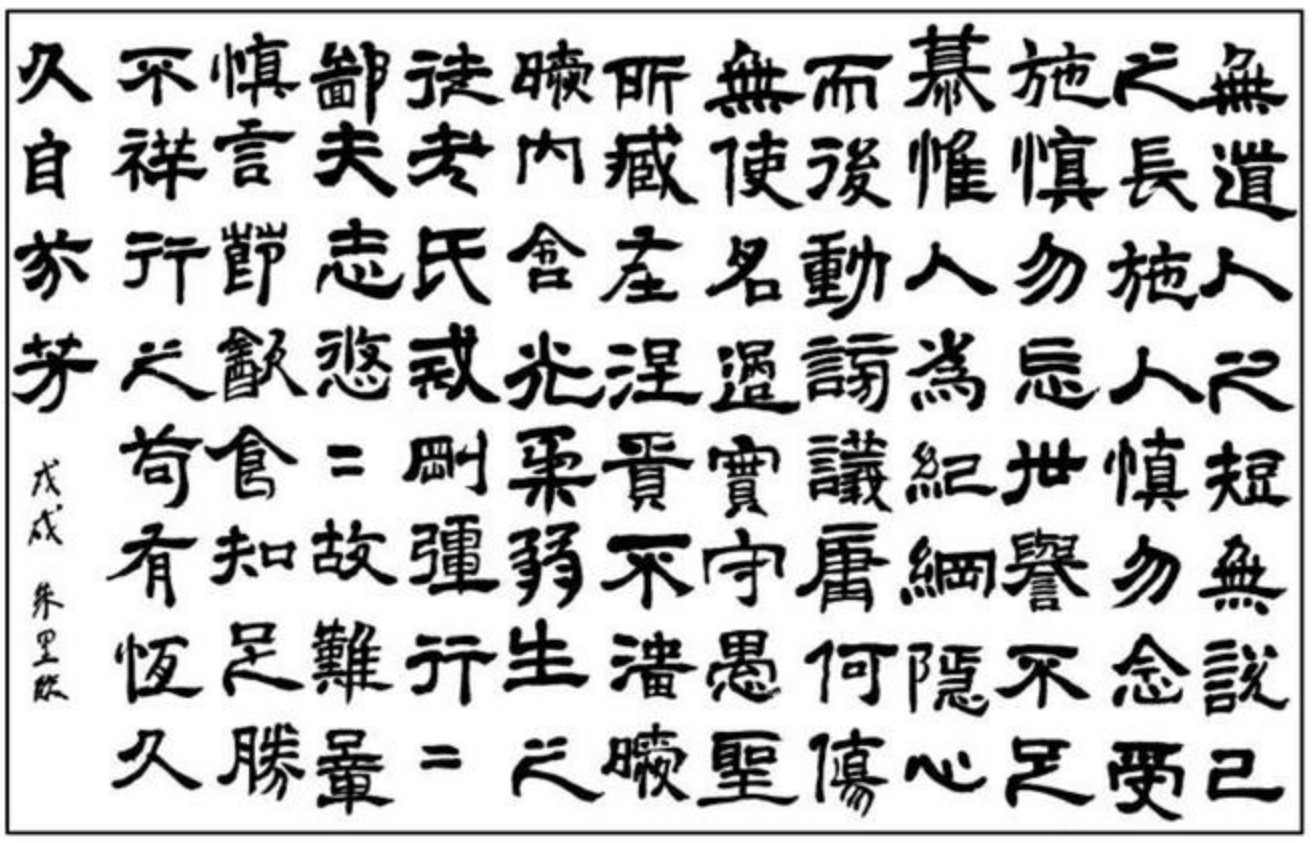
16

今村朱里　四回生

臨書　隷書　鄧石如『隷書崔子玉座右銘』　聯落横

「無道人之短……（略）」

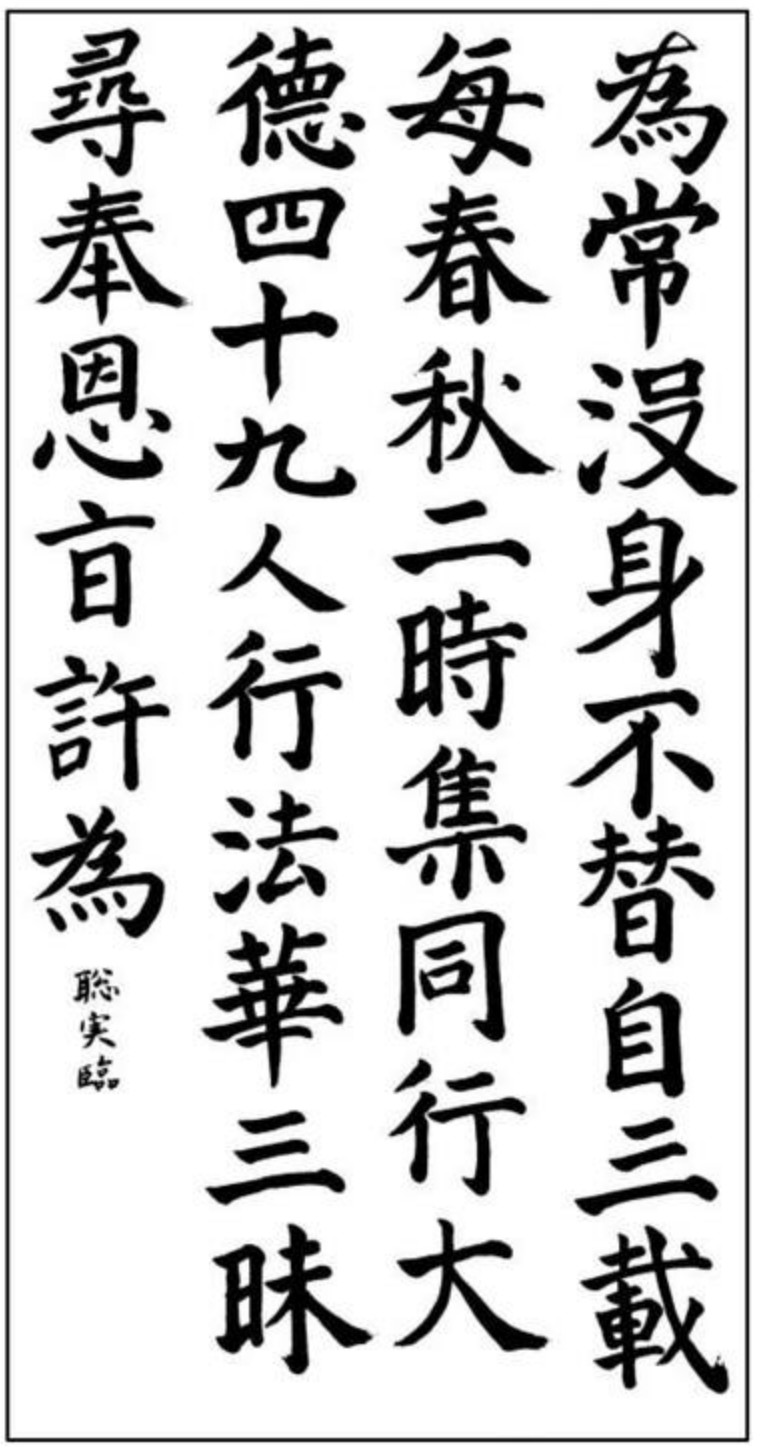
隷書を書きました。四回生になり、サイズの大きな多字数作品を出品するのはもうやめようと思っていたのですが、結局こんな感じになり、なかなか大変でした。楽しく書けたのでよしとしてくださいませ笑



17

牛田聡実　二回生
臨書　楷書　顔眞卿『多宝塔碑』　全紙

「為常没身不替自三載毎春秋二時集同行大徳四十九人行法華三昧尋奉恩旨許為」
今回もまた楷書です。独特の線質、はらいなどが再現しづらく苦戦しました。です
が、とりあえず全紙に挑戦できたので、満足です。



18

浦川真由子　四回生
臨書　行書　米芾『蜀素帖』　全紙

「青松勁挺姿凌霄恥屈盤種種出枝葉牽連上松端秋花起絳烟」
疎密や肥痩、遅速、バランスの取り方、すごく勉強になりました。文字の中の余白
が美しいと思ってもらえるよう頑張りました。



19

邢書禹　三回生
臨書　楷書　啓成『桃花庵歌』　半切

「他人笑我太風顛、我笑他人看不穿。不見五陵豪傑墓、無花無酒鋤作田。」
今回選んだ法帖は同じく欧陽詢の楷書ですが、書家が違うので、その書家の個人の
風格も含んだ作品です。字形の微妙な違いを意識して臨書するのも楽しいと思いま
す。



20

坂本和歌子　二回生
臨書　楷書　褚遂良『孟法師碑』　聯落

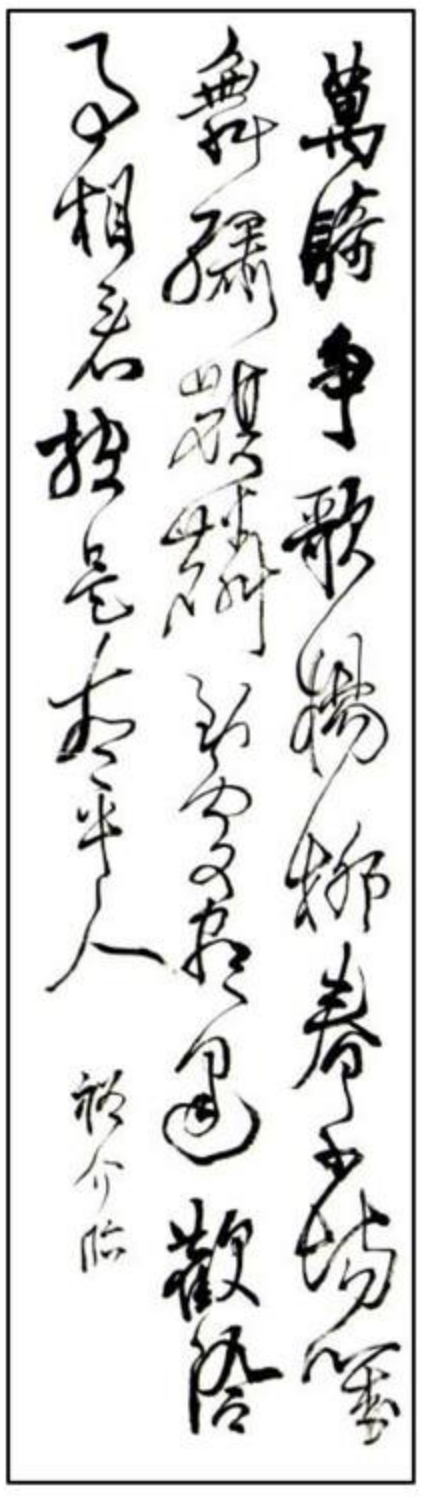
「高視神州廣開衆妙……（略）」
今までの書展で行書、草書と出してきたので今回は楷書に初挑戦してみました。想像以上に難しく、今までで一番苦戦しましたが何とか形になっているといいなぁ…と思います。



21

角裕介　四回生
臨書　草書　王鐸『高適詩』　半切

「萬騎爭歌楊柳春、千場對舞繡騏驎。到處盡逢歡洽事、相看總是太平人。」
お久しぶりです。一年ぶりの出品です。半年間も筆を握らないと、このようになります。



22

中岡大吉　二回生
臨書　楷書　黄庭堅『顔師古幽蘭賦』　半切

「冠庶弁而超絶歴」
超絶ええ感じ。



23

中林亮　二回生
臨書　楷書　褚遂良『雁塔聖教序』　半切

「賢哲罕窮其數。然而天地苞乎陰陽。」
練習し始めてから知ったことなのですが、褚遂良の父の名前が亮というらしく、少し親近感が湧きました。名前だけでなく字も近づけるようになりたいです。



24

仲村康太郎　四回生

創作　行草書　『香積寺に過る』　半切二連

「不知香積寺 数里入雲峰 古木無人徑 深山何處鐘 泉聲咽危石 日色冷青松 薄暮空潭曲 安禅制毒龍」

五言律詩。盛唐の詩人王維の作。王維は詩仏と称され仏教に関する詩が多く、本詩もその例に漏れない。深山の寺院で座禅を組む緊張感が詩に漲り、まさに「詩中に画あり(蘇軾評)」の好例である。王鐸を中心に集字し、太細疎密の変化や字の受け方、全体のバランスを意識した。なお表題中の「過(よぎ)る」は立ち寄るの意。



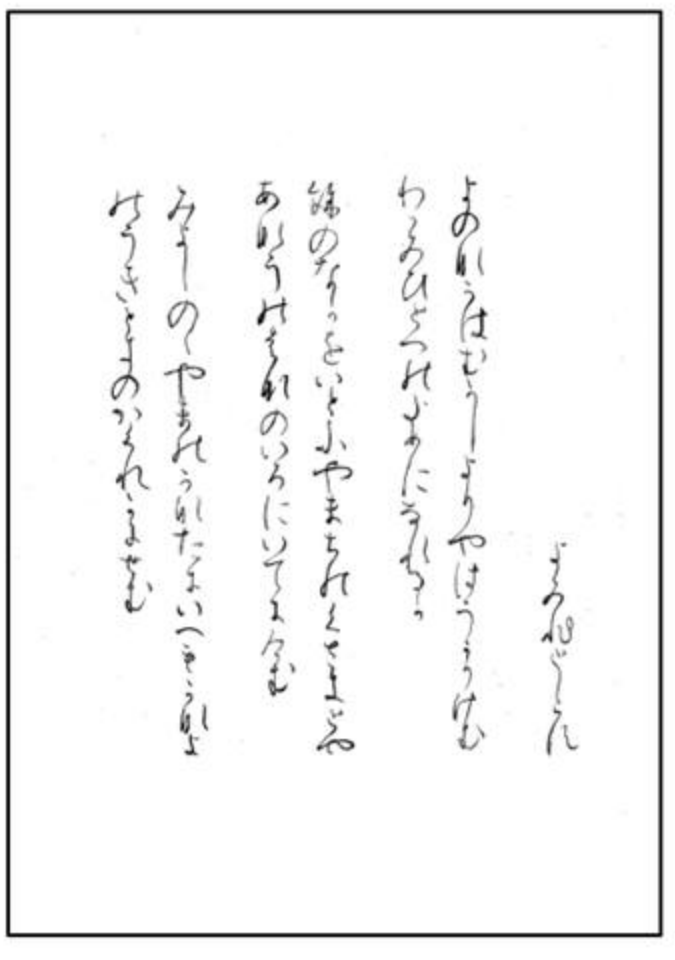
25

中村直樹　四回生

臨書　かな　伝紀貫之『高野切第三種』　半紙

「よみびと(非)しらず(須) よのな(那)か(可)はむか(可)しよりやはうか(可)りけむわがみひとつの(能)た(多)めになに(奈)れるか(可)……(略)」

『高野切第三種』は初めて書きました。あまり練習時間は割けませんでしたが、ちゃんと作品になっていれば幸いです。



26

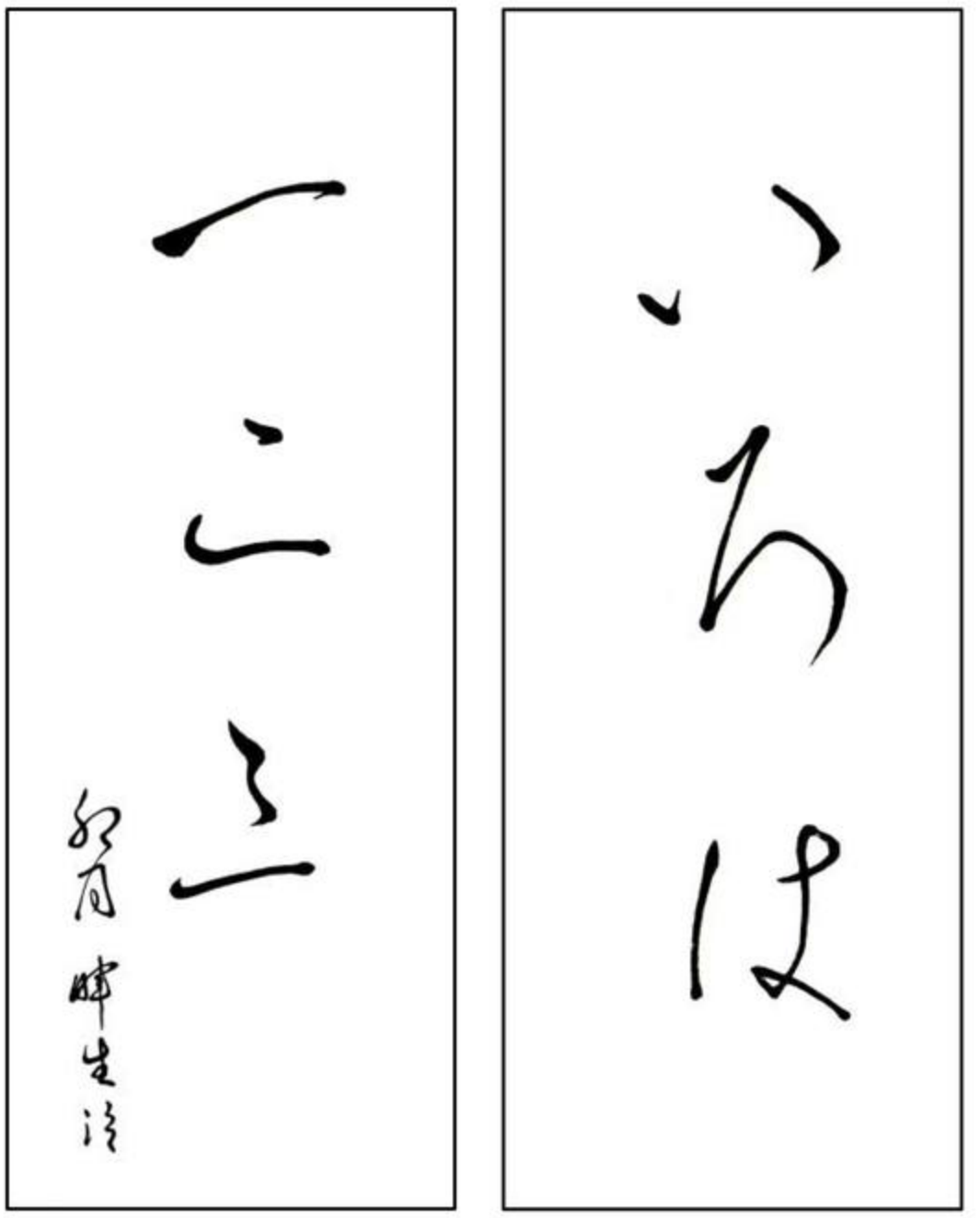
橋詰都　四回生

創作　篆刻　『夏雲奇峰』　半紙横

「夏雲奇峰」

今年の夏は勝負の夏です。青い空にそびえる入道雲のように、私も高みを目指します。





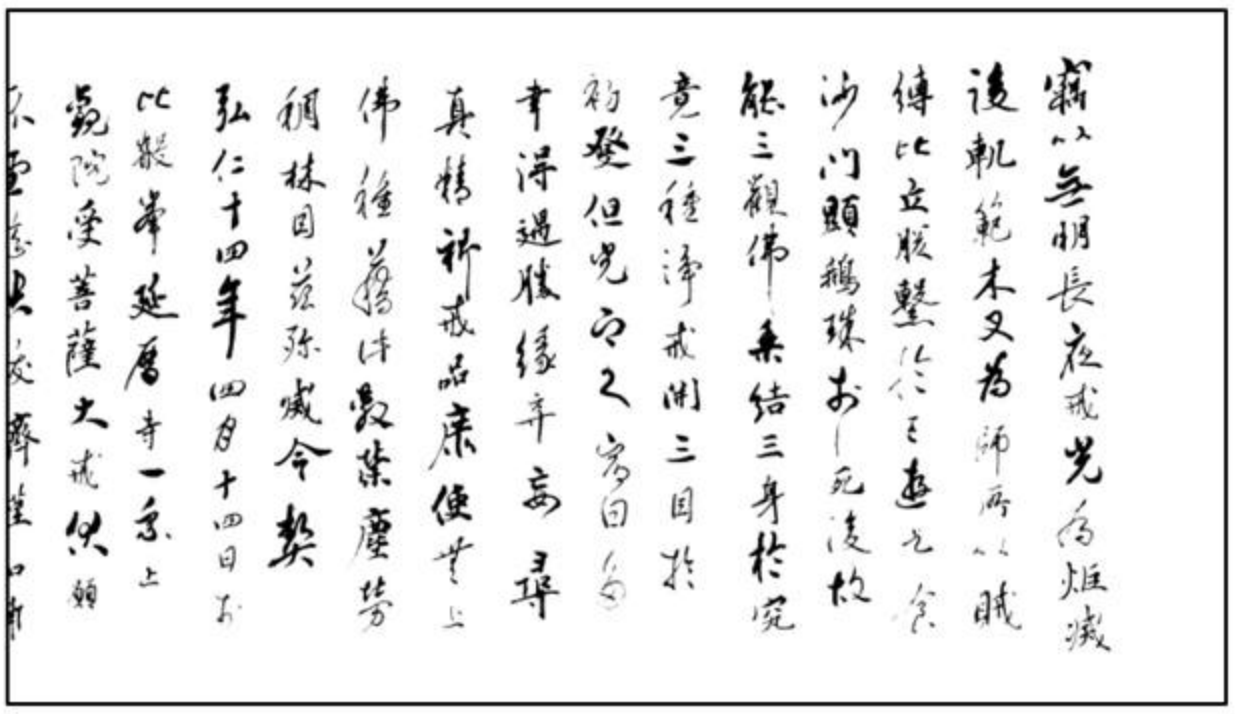
27

一二暉生　三回生

臨書　調和体　良寛『いろは　一二三』　72cm×23cm　二連

「いろは／一二三」

この書は、「誰にでもわかる字を書いてくれ」という百姓の要望に対して良寛が書いたものだそうです。シンプル故の難しさをひしひしと感じながら書きました。



28

平野晶子　四回生

臨書　楷書・草書　嵯峨天皇『光定戒牒』　巻子

「窃以無明長夜戒光為炬滅後軌範木叉為師所以賊縛比丘脱草繋於王遊乞食沙門顕鵝珠於死後……（略）」

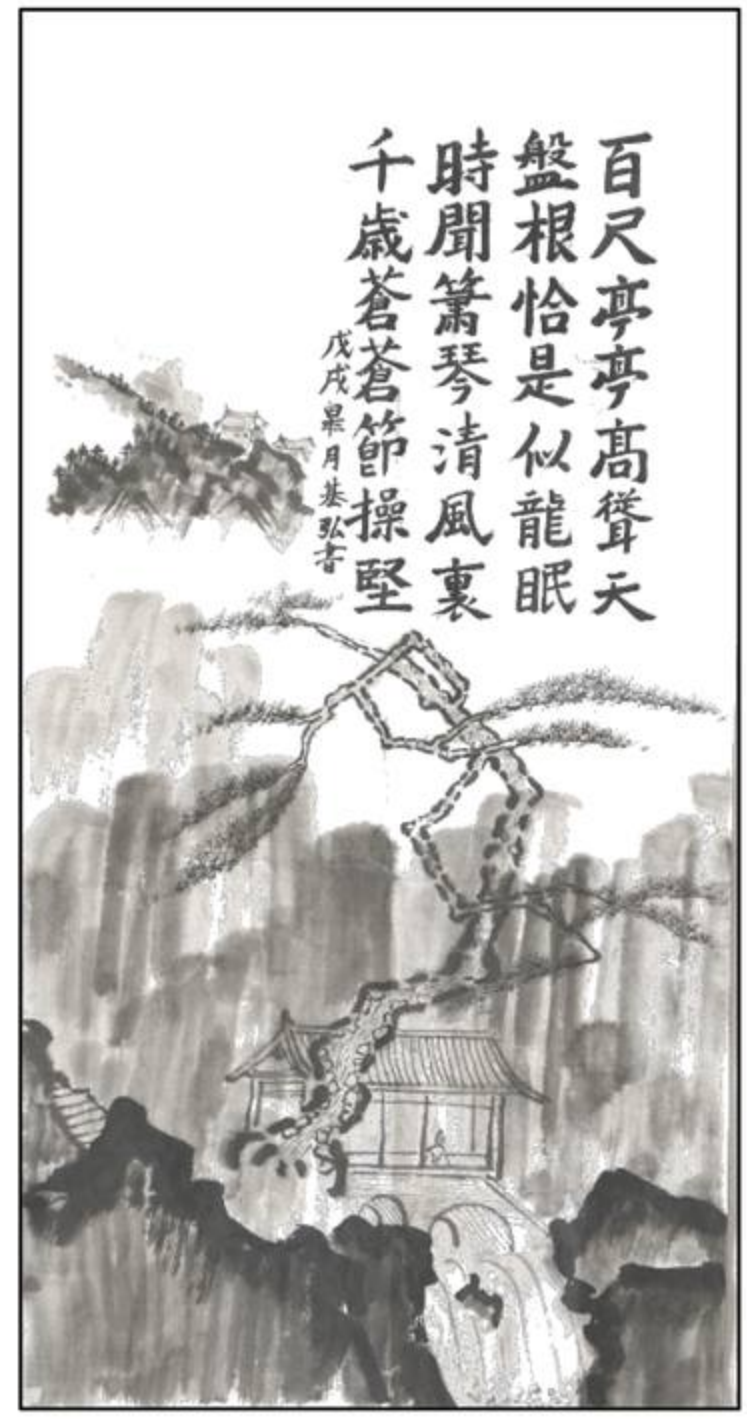
九州国立博物館にて開催された「王羲之と日本の書」展に足を運ばれた方はいらっしゃるでしょうか。中国の古典ばかりを学んできた私にとって、「和様」と呼ばれる日本独特の書に向き合うきっかけになりました。三筆の一人、嵯峨天皇の宸筆からは壮大な中国の歴史と日本人の努力がうかがえます。

29

藤井基弘　博士課程修了
創作　楷書　『松』　全紙

「百尺亭亭高聳天　盤根恰是似龍眠　時聞簫琴清風裏　千歳蒼蒼節操堅」

作者が取り組んでいるのは「京都の伝統行事に利活用される里山資源」です。その中心は〝アカマツ〟です。そこで、アカマツの賛の漢詩とアカマツの墨絵を合体して作品にしました。

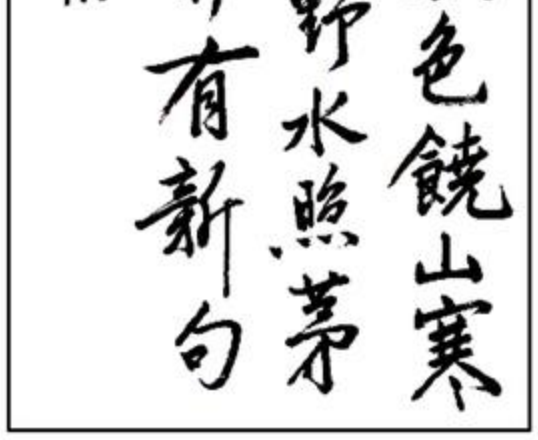


30

村上友梨　三回生
臨書　行書　文徴明『行書五律』　聯落

「歳暮天欲雪郊原風色饒山寒増突兀樹暝入蕭条……（略）」

二回目の文徴明作品の臨書です。文徴明らしい線を出すにはまだまだ練習不足のようです。



31

山科直也　修士一回生
創作　草書　『答人』　半切

「偶来松樹下　高枕石頭眠　山中無暦日　寒尽不知年」

唐詩選より太上隠者の五言絶句の創作。山の中でぐうぐうすやすや。世間から離れて今の暦すらわからねぇという内容。あぁ桂キャンパスのことか。



32

吉田凌祐　二回生
臨書　楷書　欧陽詢『九成宮醴泉銘』　半切

「九成宮醴泉銘　秘書監検校侍中……臣欧陽詢奉勅書」

『九成宮醴泉銘』は唐の皇帝、太宗が避暑のために九成宮を訪れた時に、宮殿内に泉を見つけ、これが瑞兆であるとして建てた記念碑です。その銘文は、魏徴が撰し、欧陽詢が書しました。縦六六×横十七文字で書いています。これはその一部です。楷書の極致に少しでも近づきたいものです。



33

市川拓真　二回生　・　小池莉穂　二回生　・　中岡大吉　二回生　・
森ちひろ　三回生
創作　調和体　『僕が僕のすべて』　25cm×25cm　四連

「ありのままでもう一回歩き出そう悲しみ越えて　誰のでもない名もなき道を明日もそう　夢に向かって悩んで笑って　今ここにいる僕は僕のすべてそれだけは変わらない」

こんにちは、書道部の嵐です！昨年京大書道部のパフォーマンスに嵐の楽曲を使ってもらったということで僕たちの大好きな歌詞を書きました。それぞれが個性のある書体に仕上げました。歌詞に出てくる春夏秋冬に合わせた和紙を使っているところもご注目ください。それではご覧ください、嵐で「僕が僕のすべて」。





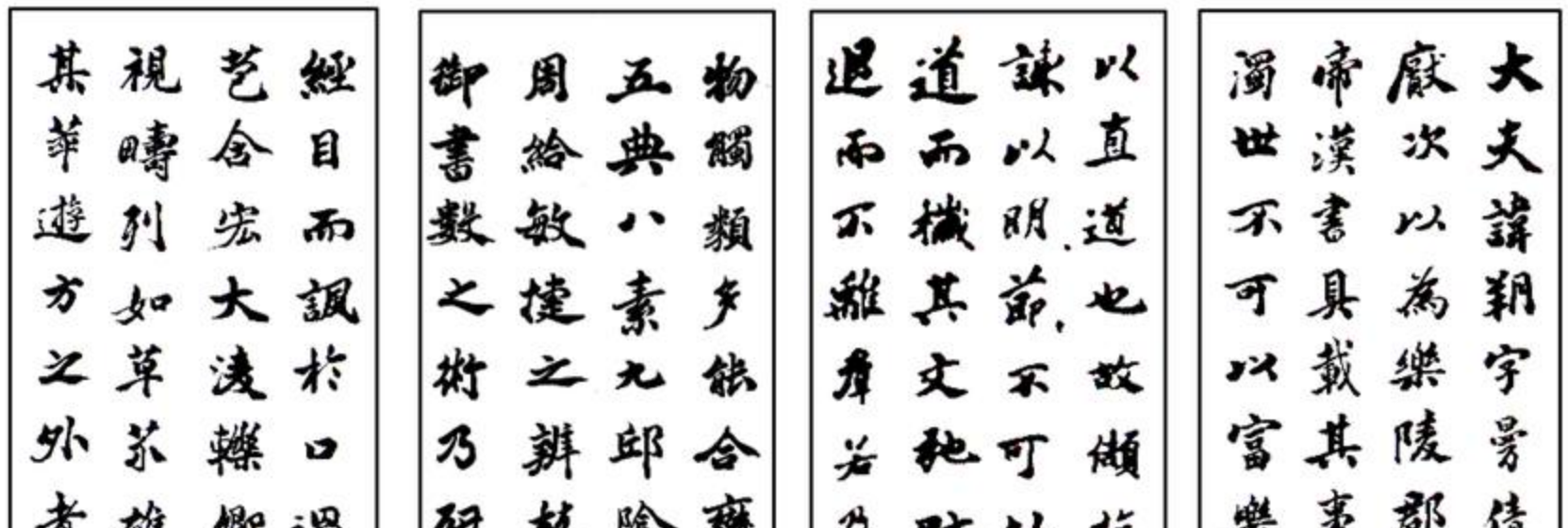


34

鵜川大輝　二回生　・　越田真由　二回生　・　松尾有輝也　二回生
臨書　楷書　呉熙載『楷書東方朔画賛四屏』　半切　四連

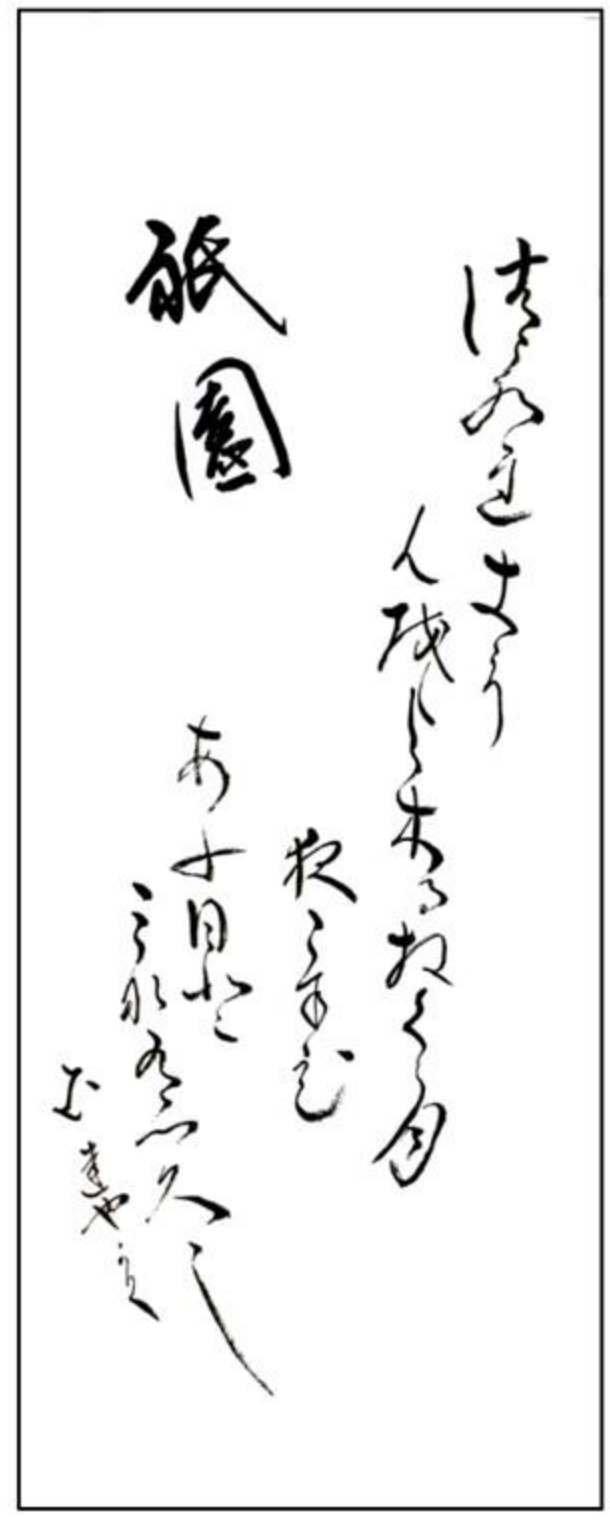
「大夫諱朔。字曼……（略）」

この法帖は墨がにじんでいて字が丸くて可愛いんです(持論)。だから二回生の中でも飛びきり可愛い三人で書きました。



35

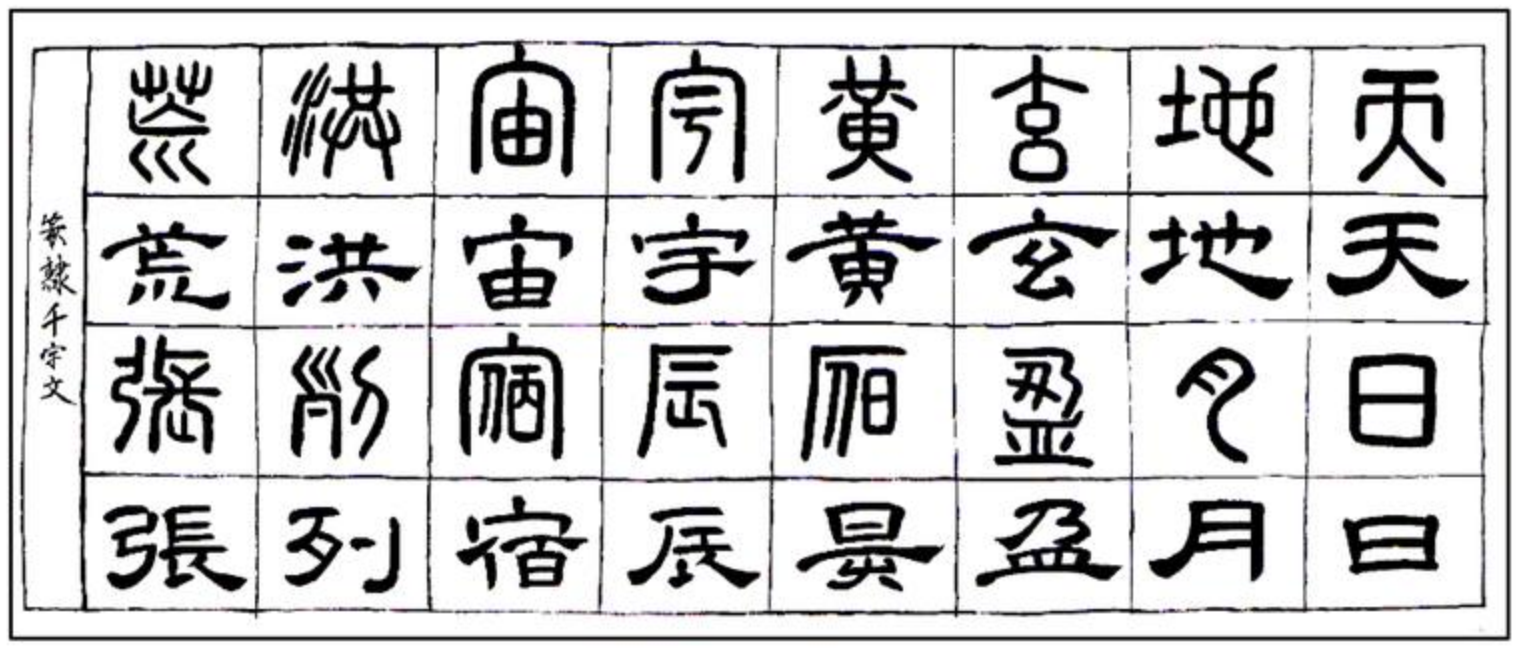
中村勇真　三回生　・　平井達也　三回生
創作　行書・かな　『祇園』　聯落



「清水へ(辺)ぎ(支)を(乎)んを(越)よ(与)ぎ(木)るさ(佐)くら月夜こよ(余)ひ(飛)あふひ(日)と(登)み(三)な(那)う(有)つく(久)しき(支)」
和歌は与謝野晶子『みだれ髪』の一首で、「桜月夜の下で清水を通って祇園へ行くと気分が高揚して、行き交う人がみな美しく見えた」というような意味です。書道部のみなさんと京都で出会い、素敵なお寺で書展ができるのは奇跡のようなことです。私たちの気分も高揚して、書展の作品がみな美しく見えるような気がします。

36

挾間優美　三回生　・　森ちひろ　三回生
創作　篆書・隷書　『篆隷千字文』　聯落横



「天地玄黄。宇宙洪荒。日月盈昃。辰宿列張。」
初めての篆書、初めての隷書、初めての聯落横作品、初めての本格的な合作。冒険が苦手な二人が色々挑戦してみました。違う書体ですが、もはや同じ書体に錯覚するくらいに調和した作品を目指したつもりです。私たちの仲の良さが滲み出ているでしょうか。

37

中村勇真　三回生　・　佐山侑莉　三回生　・　平井達也　三回生　・
金山優作　三回生
創作　楷書・行草書・篆書・隷書　『花鳥風月』　半切　四連

「花　紫藤露底残……（略）／鳥　鶯聲誘引来……（略）／風　春風暗剪庭……（略）／月　誰人隴外久……（略）」

現部長副部長の四人で和漢朗詠集を題材に合作しました。コンセプトは「調和？なにそれおいしいの？」です。各々が互いに迎合することなく、自らの個性を激しく主張することで逆説的に作品として成立していれば幸いです。









38　全体合作
創作　『書道史年表』
今回は部員で書道史年表を作ります。歴史上の書家によって書かれた文字などを紙に書き時代順に並べることで京都大学書道部のオリジナル書道史年表を作成します。時代とともに変化していく書体にご注目ください！

39　新入生合作
創作　『自分を表す言葉』
書道部に入って初めての書展作品です。自己紹介もかねて、自分を表す言葉を書きました。それぞれの個性が出ているでしょうか。ぜひ、皆さんも自分を表す言葉を思い浮かべてみてください。

40　二回生合作
創作　『他己紹介』
こんにちは！今回の書展ではそれぞれが自分以外の部員一人一人のイメージを漢字一文字で表す、という自己紹介ならぬ〝他己〟紹介を行いました。個性豊かな部員がどんな人物なのか、想像しながらお楽しみ下さい！

41　三回生合作
創作　『乙亥雑詩』
三回生が幹部としての最後の作品です。みんなで漢詩を完成しました。ぜひ幹部回生の書道部愛を伝えたいと思います。

○禅居庵

42

荒巻拓哉　修士二回生
創作　草書　『懸崖撒手』　半切

「懸崖撒手」
切り立った崖からパッと手を離すように、勇気を出して思い切って物事を行うこと。思い切りのいい人間になりたいものです。



43

石本森羅　二回生
創作　行書　『早發白帝城』　全紙

「朝辭白帝彩雲間、千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住、輕舟已過萬重山。」
米芾の行書を基調として、李白の有名な詩を書きました。詩文の鮮やかさに似合う明るい作品になるよう、筆の浮沈を生かした表現を心がけています。



44

市川拓真　二回生
臨書　隷書　楊峴『臨衡方碑』　半切

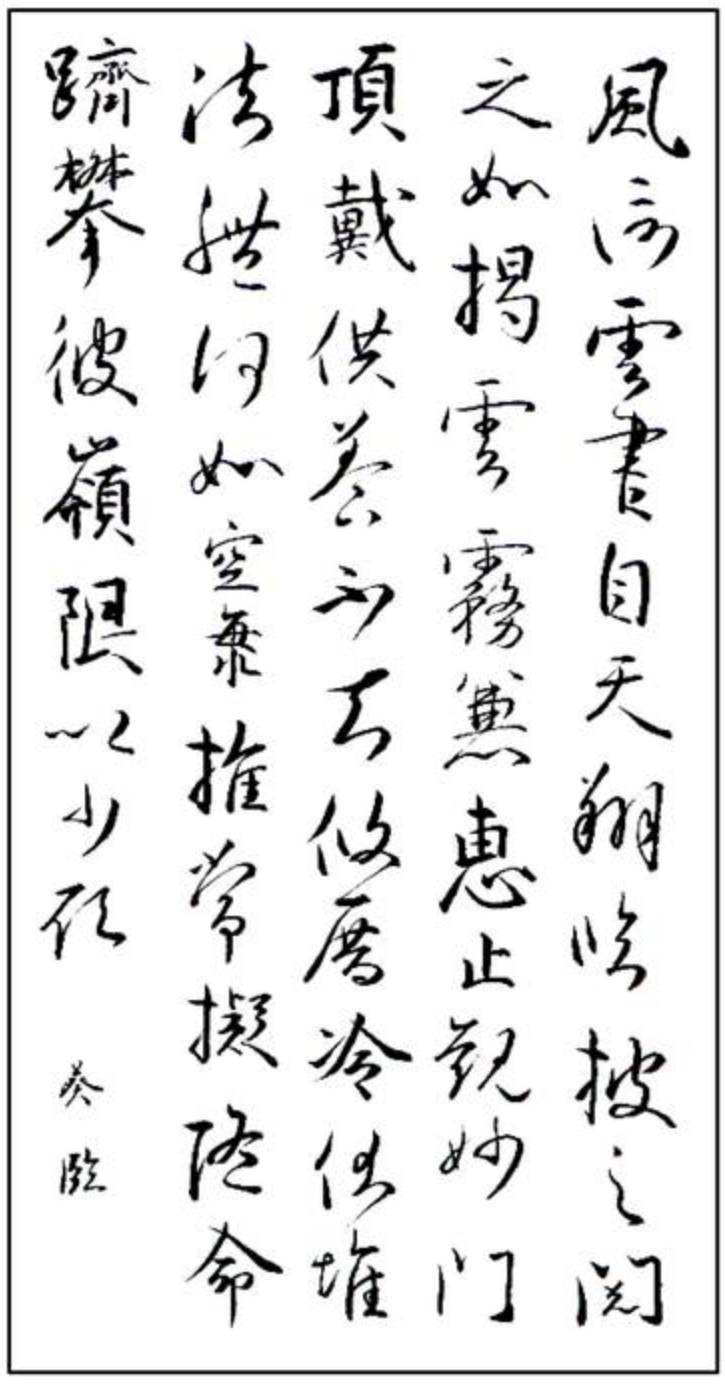
「歸来洙泗用行舎藏徵拜議郎遷大醫令京兆尹奮都餘化詩人詠」
僕の大学でのポリシーは「挑戦」。ということで、初めて隷書に挑戦しました。先輩や同回のアドバイスを頂きながら約半年間練習しました。隷書、素敵ですよね。



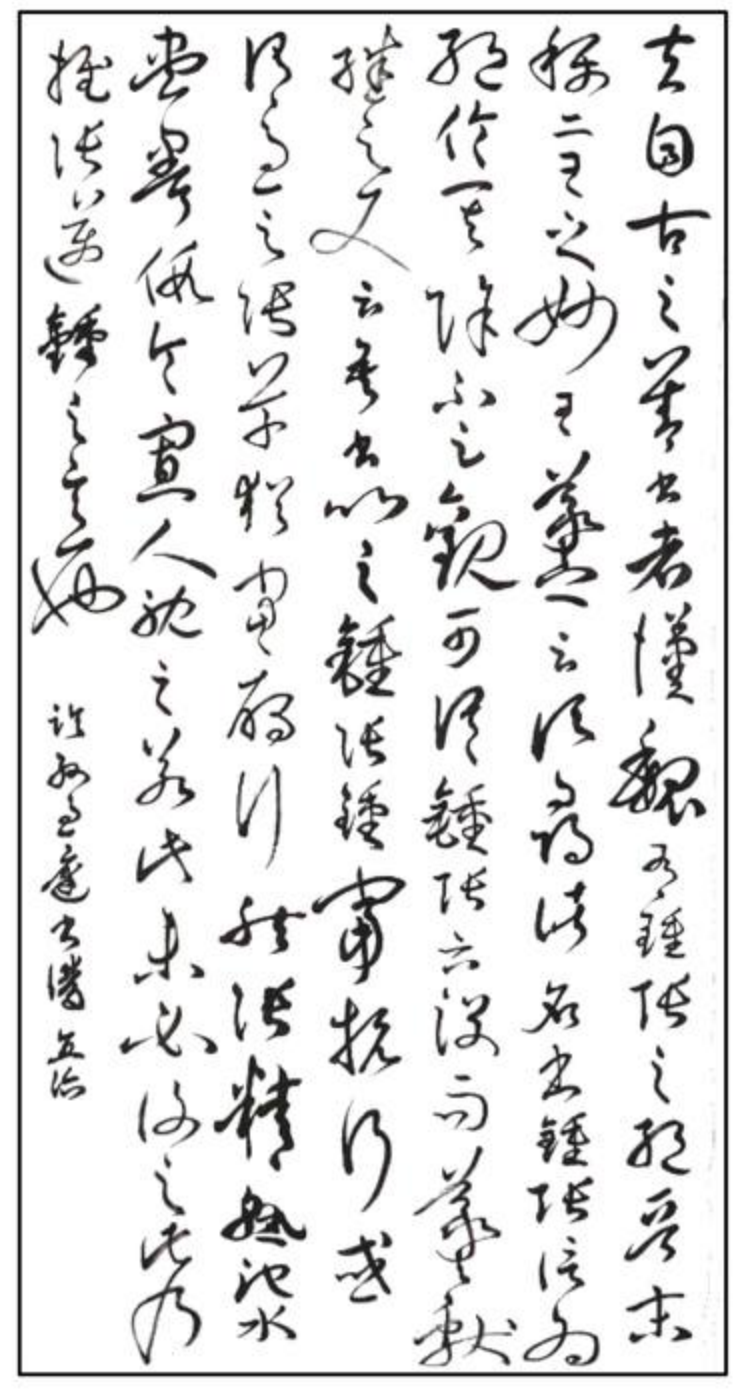
45

大橋葵　二回生
臨書　行書　空海『風信帖』　全紙

「風信雲書。自天翔臨。披之閲之。如掲雲霧。兼惠止勸妙門。頂戴供養。不知攸厝。已冷。伏惟法體何如。空海推常。擬隨命躋攀彼嶺。限」
日本の行書を書きたくて選びましたが、かなり気に入ったので楽しかったです。有名な冒頭の「風信」の二文字の格好良さに惹かれましたが、なかなか格好良くは書けませんね。まだまだこれからも頑張ります。



46　覚道直治　三回生
臨書　草書　孫過庭『書譜』　全紙



「夫自古之善書者漢魏有……（略）」

実験レポートを書くノリでたくさん書きました。字形を真似ながらリズムよく書くのは難しかったですが、法帖の雰囲気を残しつつ書道作品っぽくしたつもりです。ちなみに実験レポートを草書で書いたら受け取ってもらえないらしいです、知らんけど。

47　勝野初紀　三回生
臨書・創作　隷書　『温故知新』　半切　四連



「司馬温公……（略）／絶基本根……（略）／皇矣先生……（略）／渭城朝雨……（略）」

昔の書家の性格は分からないし、声も血液型も分からない。だが、私は字を見てその書家に想いを馳せるのが好きである。勿論、それが正解かは分からない。それでも、字からはその書家の面影を感じることができると私は信じている。皆さんの目に「私という書家」はどう写るでしょうか？（右三作品　臨書　左端　創作）

48

金岡杏祐　三回生
臨書　隷書　作者不詳『曹全碑』　半切

「葉布所在爲雄君高祖父敏擧孝廉武威長史巴郡朐忍令張掖居延都尉曽祖父述孝」
文字の重心が法帖では不揃いなのですが、作品に仕上げる際に重心を横で揃えて書くように意識したので、注目してほしいです。法帖の文字のもっちり感が再現できたでしょうか。



49

金山優作　三回生
臨書　行書　何紹基『七言聯』　全紙三分の一　二連

「童遊爛漫情堪憶。醉墨淋漓画莫遲。」
何紹基の行書に見惚れてはや四年。気付けば大学生活は折り返し、京大書道部の幹部も終わりを告げる時期になりました。時間が過ぎるのは早いものです。

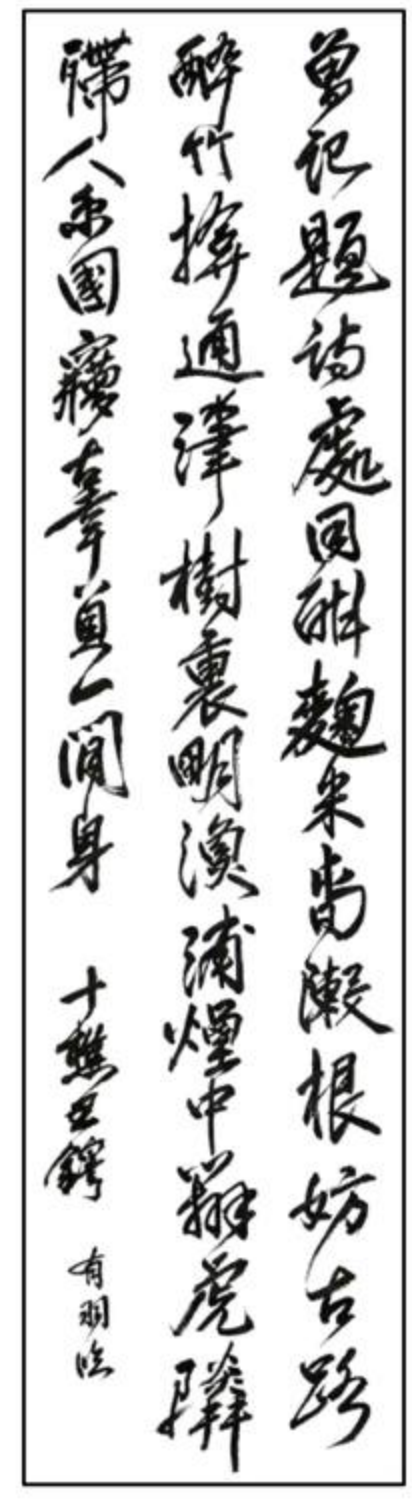




50

木下有羽　修士一回生
臨書　行書　王鐸『引匡巒弟重至靈山鳳崖詩』　半切

「曾記題詩處　同酣麹米春　陳根妨古路　醉竹揜円通津　樹裏明魚捕　煙中辨虎隣　艸人京國夢辜負一閒身」
一回生の冬樟展で見た、王鐸の臨書作品（半切三行）がコンパクトさと躍動感を兼ね備えており、いつかこの形で自分も作品を出してみたいと思っていました。練習不足・力不足を身に沁みて感じましたが、なんとか形にすることができました。



51

郡健一郎　四回生
臨書　楷書　王献之『洛神賦十三行』　半切

「塗之郁烈兮步衡薄而流芳超長吟以慕遠兮聲哀厲而彌長爾迺衆靈雜遝命儔嘯」
過去に同じ法帖で作品をつくったことがありますが、その時に納得がいくまで練習しきれなかったので再びこの法帖に向き合うことにしました。



52

越田真由　二回生
臨書　隷書　作者不詳『木簡』　全紙五分の三

「建武五年八月甲辰朔……（略）」
とうもろこしみたいな作品を目指しました。



53

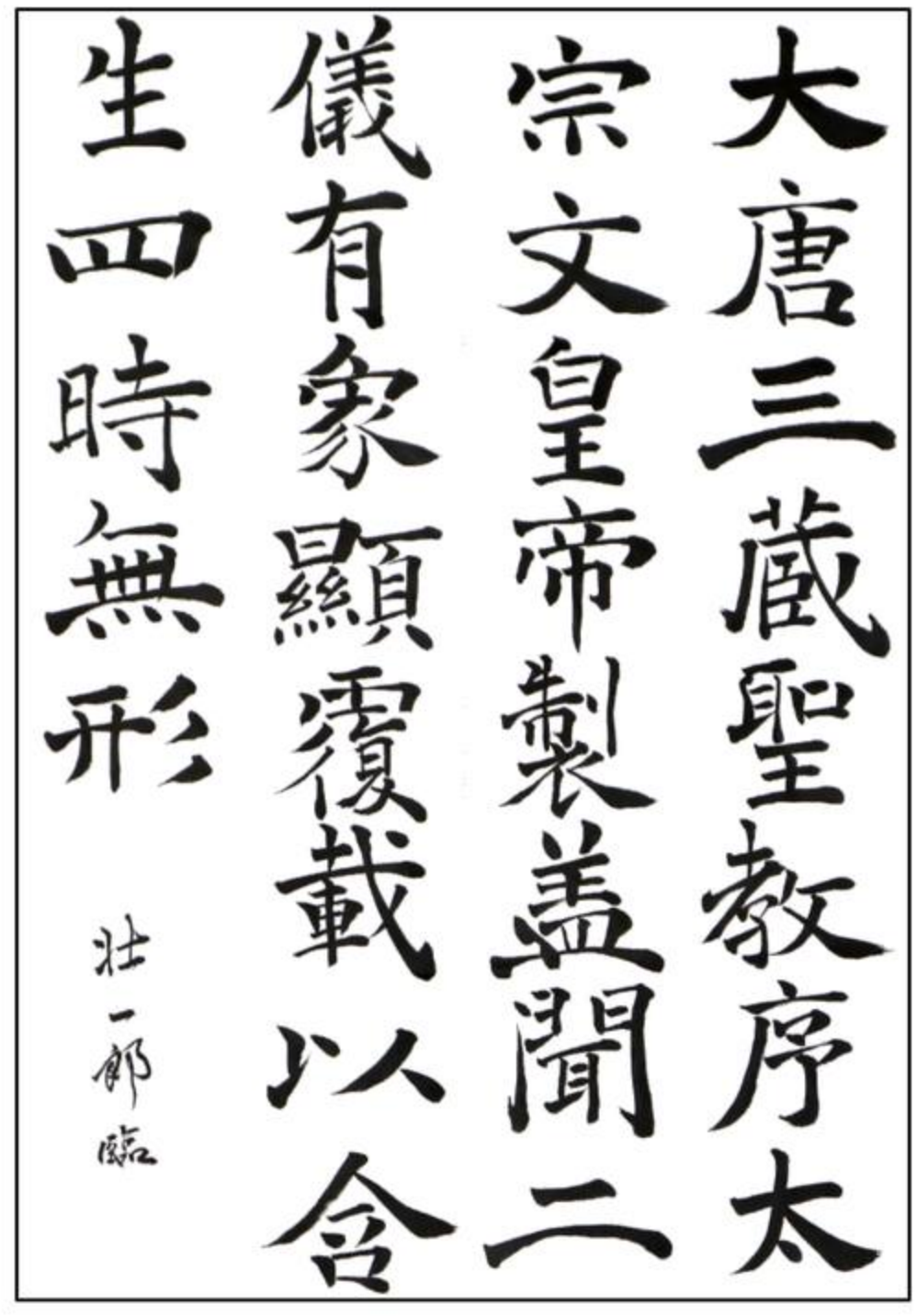
小林由佳　四回生
創作　篆刻　『愚公移山』　葉書

「愚公移山」
【言葉の意味】愚公という老人が交通の便を良くするために自宅前の山を崩し始めた。これを見た人に笑われても子々孫々続ければいつか成功すると答えた。その志に感じた天帝が一夜で山を移させた。この伝説から転じて、どんな困難も努力を続ければ成功することのたとえ。

54

建部壮一郎　三回生
臨書　楷書　褚遂良『雁塔聖教序』　全紙四分の三

「大唐三蔵聖教序。太宗文皇帝製。蓋聞。二儀有象。顕覆載以含生。四時無形。」
力強い字を書くのが好きなのですが、今回はあえてしなやかな字に挑戦してみました。
強弱のある線を書くのが難しかったです。字は体を表すと言いますが、しなやかに生きていきたいものです。



55

中岡大吉　二回生

創作　調和体　『火花』　全紙二分の一

「火花 生きている限り、バッドエンドはない 僕たちはまだ途中だ これから続きをやるのだ」
火花貸すので是非読んでください。



56

仲村康太郎　四回生

臨書　楷書　作者不詳『司馬昞墓誌銘』　半切三分の二

「魏故持節左將軍平州刺史宜陽子司馬使君墓誌銘。君諱昞。字景和。河内温人也。晉武帝……（略）」

司馬昞墓誌銘は北魏の楷書の佳品。北魏・隋両時代の楷書は、初唐の完成された楷書に比べて未熟な部分も多いが、大胆な結構や多様な異体字が見られ魅力も多い。墓誌銘の全臨は本作が三回目。今まで培った技術・感覚を頼りに、約三〇〇字、一筆一筆確かな手応えで書き進めた。楷書はやはり、書の王道。

魏故持節左將軍平州刺
史宜陽子司馬使君墓誌
銘君諱昞字景和河内温
人也晉武帝之八世孫淮
南王檢之曾孫魏平北將
軍固州鎮太將魚陽郡宜
陽子興之子先室七離宗

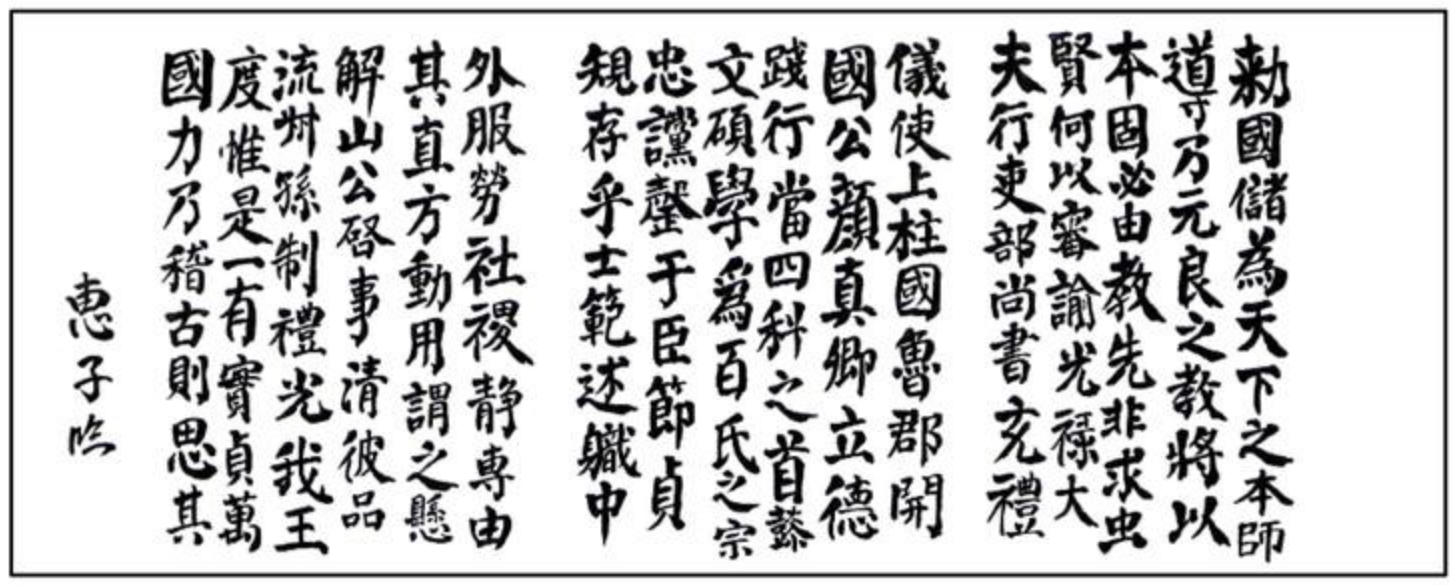
57

野田恵子　二回生

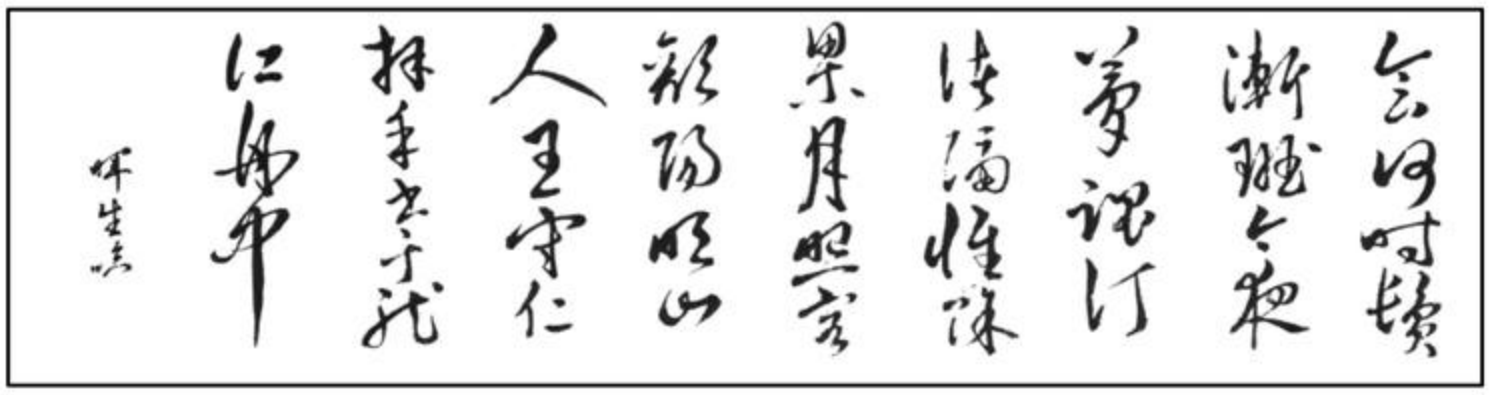
臨書　楷書　顔真卿『建中告身帖』　30cm×80cm

「勅國儲為天下之本師導乃元良之教將以本固必由教……（略）」

建中告身帖は、顔真卿が太子少師（皇子の教育係）の官に転任することを命じられた際に自筆した辞令書です。顔真卿の字は個性的で、見れば見るほど惹きつけられます。そして評価がどうであれ、これが私の個性だと言っているようなかっこよさを感じます。そういった魅力を十分に表現できるよう努めました。


勅國儲為天下之本師
道寸乃元良之教將以
本固必由教先非求虫
賢何以審諭光禄大
夫行吏部尚書充禮
儀使上柱國魯郡開
國公顔真卿立德
踐行當四科之首藝
文碩學為百氏之宗
忠讜蟄于臣節貞
規存乎士範述職中
外服勞社稷靜專由
其直方動用謂之懸
解山公啓事清彼品
流州猶制禮光我王
度惟是一有實貞萬
國力乃稽古則思其
恵子臨

58　一二暉生　三回生
臨書　草書　王守仁『龍江留別詩』　半切横



「會何時鬢漸斑今夜夢魂汀渚隔惟餘梁月照容顔陽山人王守仁拜手書于龍江舟中」

どうしてもうまくまとまらず、四苦八苦しつつ書きました。やはり横作品は書いていて楽しいです。

59　平井達也　三回生
創作　篆刻　『游雲驚竜』　色紙



「游雲驚竜」

「游雲驚竜（ゆううんきょうりょう）」は筆遣いが素晴らしく、筆跡が生き生きとした様子を雲と竜に例えたもので、王羲之の書を評した言葉です。数十年後には書を評する言葉は「マジ卍★」になっているのだろうか、そんなことを考えながら初めての篆刻に取り組みました。

60　平野晶子　四回生
創作　行草書　『諸葛亮誡子書』　半切三分の二



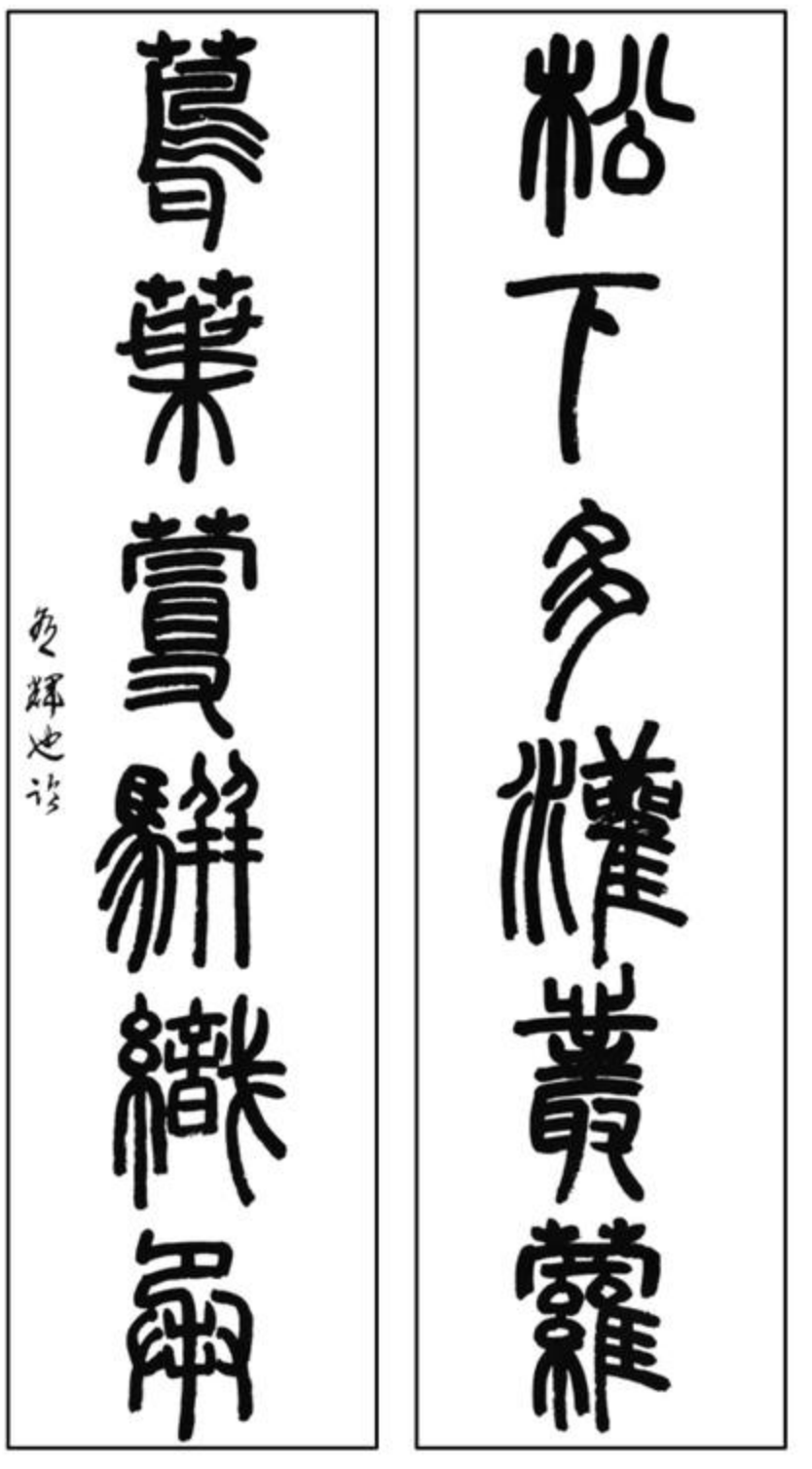
「非澹泊無以明志、非寧静無以致遠。」

物欲をあっさりさせ、心身を平静に整えることで、志を明らかにし、より遠くを見つめ、到達する、という内容の漢詩です。学部生活も残すところ九カ月半。私も諸葛亮のように芯の通った人間になれるでしょうか。

61

松尾有輝也　二回生
臨書　篆書　鄧石如『篆書白氏草堂記六屏』　半切　二連

「松下多……（略）」
草書と篆書はパッと見それが何という漢字なのか分からないし、その分からないものを書くことに抵抗があったのですが書いてみると案外ハマっちゃうものでしてそのおかげで僕の書道の世界がかなり広がった気がします。



62

安田直記　二回生
臨書　行書　橘逸勢『伊都内親王願文』　聯落

「藝門閤安和表裏康睦遂乃体謝塵端形昇物表慈舟暫」
カッコ良く書きたい。



63

矢野凱己　修士一回生
創作　かな　『夏と秋と』　半切

「なつと秋と(登)　ゆ(遊)き(起)かふそ(曽)らの　(濃)か(可)よひぢ(遅)は(八)か(可)た(堂)へ(遍)す(春)ゞしき　か(可)ぜやふ(婦)く(久)らむ(無)」
流れ・余白・潤滑にこだわって大胆な構成で。



64

山口和樹　修士一回生

創作　行書　『寿雲』　半切三分の一横

「寿雲」

寺にありそうな有難いやつ書きました。



65

山科直也　修士一回生

臨書　行書　呉昌碩『七言絶句幅』　半切

「悲盦演安呉筆……（略）」

学部一回生のときとある先輩のこの作品の臨書を見て感動したのを覚えている。ただの臨書、されども臨書。作品として提起する以上は臨書の枠組みにおいても何を表現するかの命題を考え続ける必要があるのかもしれない。



66

吉岡智志　三回生

臨書　行書　褚遂良『枯樹賦』　半切

「風亭而唳鶴對月峡而吟猨乃有拳」

法帖を見たときにかっこいいなと思い、この法帖を選びました。とても難しかったです。



67

吉田凌祐　二回生

臨書　かな　伝藤原行成『升色紙』　半懐紙

「幾夜へて後か忘れむ散りぬべき野辺の秋萩みかくつきをば　人を思う心はかりにあらねども雲居にのみもなき渡るかな　今ははや恋ひしなましをあひみむとたのめしことぞ命なりける　ともすれば立ちなむとする雨雲の空にも人の思ほゆるかな」

『升色紙』では特徴的な散らし書きがされています。行の送り方や行間隔などに規則性はありません。しかし、そのような散らし書きによる余白の使い方は非常に美しいです。この四首だけを見ても全く異なっています。それぞれの特徴が再現できていれば幸いです。

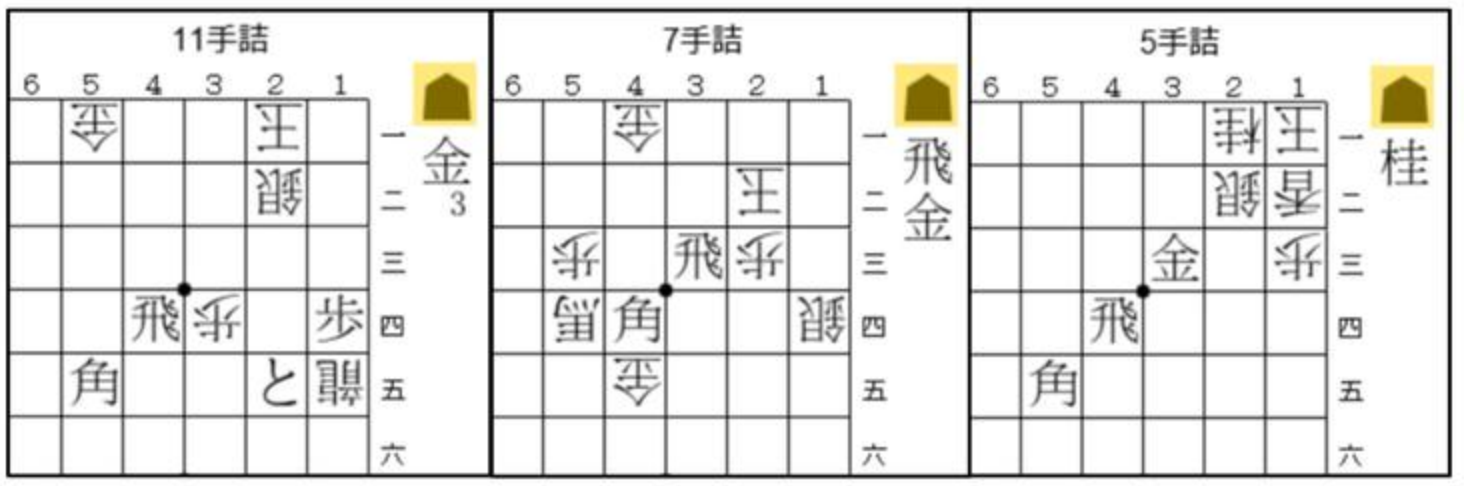


68

安達光寿　三回生　・　角裕介　四回生　・　仲村康太郎　四回生
創作　楷書　『「つみ」な男たち』　色紙　三枚

「囲」「斬」「猛」

昨今の将棋ブーム（？）に乗じて、男三人、自分の棋風を一字で書き、その上に、棋風に沿う詰将棋を書きました(詰将棋の作問は全て仲村担当)。十一・五・七手詰めのいいコーナー(1157)です。もはや合作といえるか微妙ですが、各詰将棋に共通性があること、意味深な表題に複数の意味を込めたことが合作たるゆえんです。



69

金山優作　三回生　・　阿部朱夏　四回生
創作　調和体　『あぁ、人生に涙あり』　半紙

「人生楽ありゃ苦もあるさ　人生涙と笑顔あり。そんなに悪くはないもんだ。何にもしないで生きるより何かを求めて生きようよ。」

人生楽ありゃ苦もあるさ。人生しんどいことばかりじゃないと信じて生きたいものです。

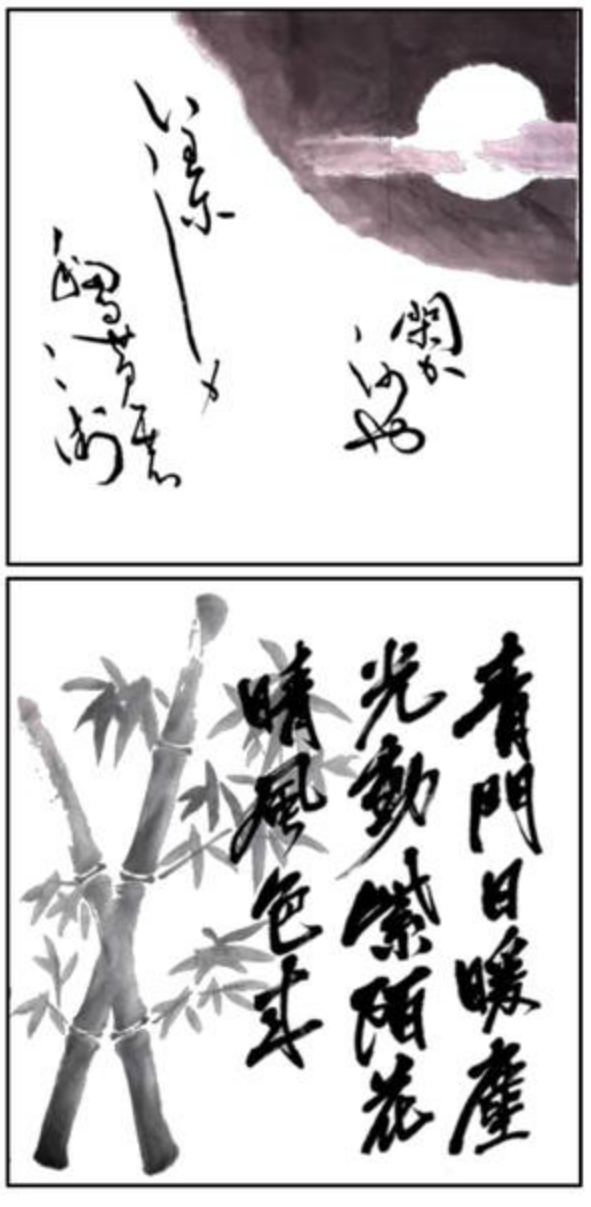


70

金山優作　三回生　・　佐山侑莉　三回生
創作　かな・行草書　『静と動』　聯落

「閑かさ(沙)やいわ(王)に(尓)しみ(身)い(移)るせみ(見)の(農)こゑ(衛)／青門日暖塵光動　紫陌花晴色風来」

やりたいことを詰め込んだらすごいカオスな作品が出来上がりました。静と動。陰陽論によれば相反するものたちの混合によって世界は構築されているらしいですね。

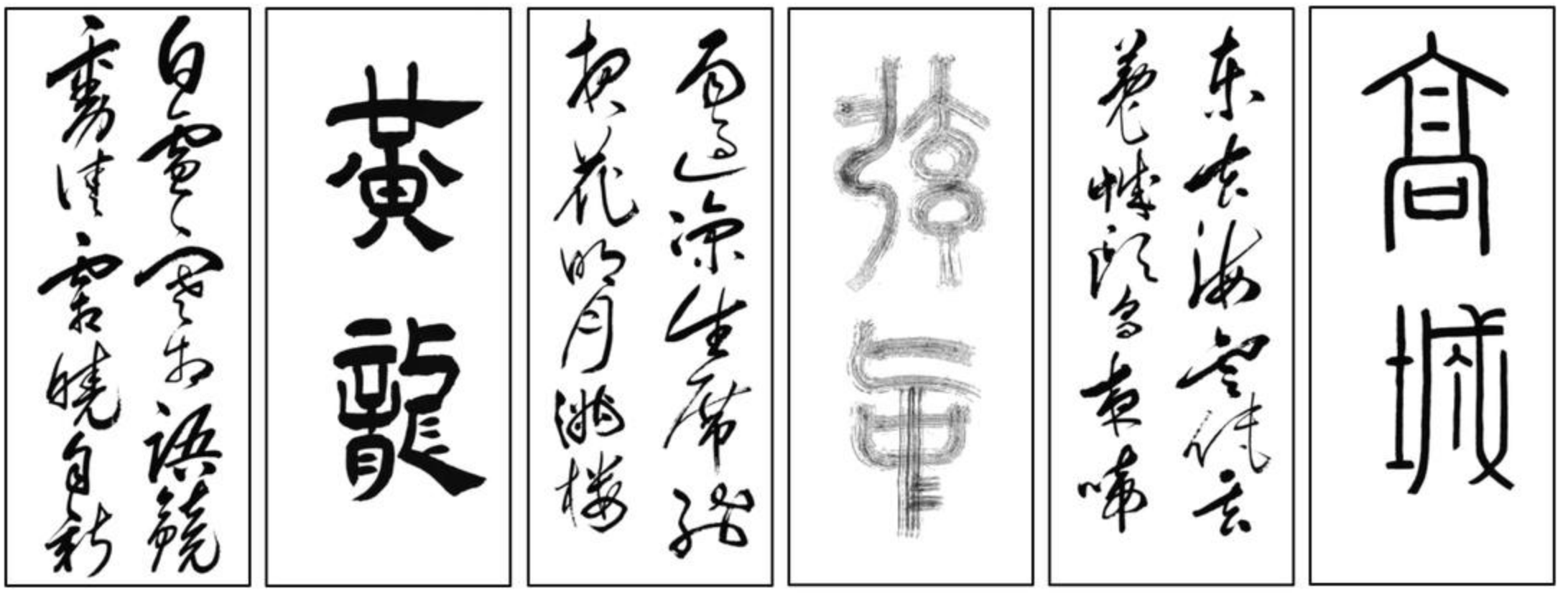


71

市川拓真　二回生　・　坂本和歌子　二回生　・
中村勇真　三回生　・　安田直記　二回生　・
臨書　草書・隷書・篆書　三井親和　『詩書屏風』　69cm×29cm　六連

「高城／東去海雲低玄菟城頭鳥夜啼／弦中／雨過涼生席残夜花明月満楼／黄龍／白雪寒相語鏡動清霜暁自新」

ある日、部室に突如として現れた『王羲之という日本の書』。たまたまその場に居合わせた市川、坂本、中村、安田は「あちら側」の世界に引きずり込まれてしまう。その中で彼ら四人が目にしたものとは……！篆隷草三つの世界が交錯する感動の超大作。



【顧問・部員紹介】

顧問：京都大学大学院文学研究科教授　宇佐美文理
　　京都大学人文科学研究所図書掛　行友三輪子
技術顧問：日展会友　書道家　寺本蒼玄

一回生

理　秋友祥香
総人　伊藤迅亮
農　岩田恵理子
工　王敬媛
農　小笠原萌葉
教育　岡野裕仁
医　岸根葵葉
工　北田綾
工　坂崎亜実
法　佐藤那義
農　柴田達哉
工　洲鎌英行
文　杉山太郎
工　鈴木和樹
工　陳鵬旭
法　中村紀保子
工　野口直哉
農　服部佳乃子
経済　ファムトウジャンホン
経済　吉野葵
工　渡部裕貴

二回生

文　石本森羅
工　市川拓真
工　鵜川大輝
文　牛田聡実
法　大橋葵
農　小池莉穂
工　越田真由
同志社　近藤佑香
法　坂本和歌子
文　寺田奈津美
同志社　中岡大吉
工　中林勇真
同志社　野田恵子
法　星野孔伸
工　松尾有輝也
工　安田直記
法　湯宮颯太
理　吉田凌祐

三回生

法　安達光寿
医　岡本沙也香
工　覚道直治
京学　勝野初紀
法　金岡杏祐
工　金山優作
京薬　鬼頭由里香
工　金祺民
工　邢書禹
医　佐山侑莉
法　建部壮一郎
理　中村勇真
医　野田智子
文　挾間優美
工　一二暉生
文　平井達也
ダム女　別府華
文　堀川祥夢
法　村上友梨
京女　森ちひろ
農　吉岡智志

四回生

工　阿部朱夏
医　今村朱里
法　上村香鈴
医　浦川真由子
法　小野日菜乃
工　郡健一郎
農　小林由佳
農　阪井田有紗
文　佐武千寛
工　角裕介
文　橘大輝
法　徳田寛生
文　仲村康太郎
文　中村直樹
工　橋詰都
理　原誠人
工　原田拓実
同志社　平野晶子

五回生

医　岡本晴香
府医　木高早紀

修士一回生

農　木下有羽
医　下坂桃代
人環　薛楽
薬　竹内春佳
工　ハンナ
情報　バファウェイ
人環　深谷拓未
農　堀場菜摘
法　三村祐貴
工　宮部大志
工　矢野凱己
工　山口和樹
工　山科直也
工　渡辺顕

修士二回生

農　新井一矢
薬　荒巻拓哉
理　上西隆太
工　牛山泰喜
工　閻妹恒
工　角谷遊野
農　釜阪紘平
工　藏岡凌平
大教　島津七明
工　白谷暢浩
工　宗哲仁
理　疋田研一郎
農　方伯軒
農　柳本圭介
人環　山脇謙

修士四回生

情研　プリースナー

博士二回生

法　大泉陽輔
医　川上澄香
薬　シュミッド

博士課程修了

地環　藤井基弘

掛軸 文房四宝 和紙の店
書楽

〒605-0012 京都市東山区東山三条東入南側
TEL.075-762-2330／FAX.075-751-6571
syoraku@aioros.ocn.ne.jp
〈日曜・祝日定休〉

書道用品と表装・額装
書遊

充実のECショップ 書遊Online 書遊 検索
ポイントがとってもお得なオンラインショップ http://shoyu-net.jp/

書遊奈良本店 〒630-8243 奈良市今辻子町３７
TEL.0742-23-5547／ FAX.0742-20-2261
書遊大阪店 〒553-0003 大阪市福島区福島 5-14-6 クレセントビル 2F
TEL.06-6458-8808／ FAX.06-6456-4077
書遊京都店 〒604-8132 京都市中京区高倉通三条下る丸屋町 164
TEL.075-251-7800／ FAX.075-251-7802
書遊松島堂 〒320-0058 栃木県宇都宮市上戸祭 3-2-25
TEL.028-678-6705／ FAX.028-678-6551
書遊札幌アメミヤ店 〒060-0061 札幌市中央区南一条西２丁目５南一条 Kビル5F
TEL.011-398-9400／ FAX.011-398-9401

筆・墨・硯・書画用紙・色紙短冊・日本画用具
株式会社 松楳園

〒600-8075 京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
TEL（０７５）３５１－６３８０(代)
FAX（０７５）３６１－８００６
http://www.shoubaien.co.jp.

香/筆/和風文具/香道具/茶道具
鳩居堂

〒604-8091 京都市中京区寺町姉小路
上ル下本能寺前町 520
営業時間 10～18 時 定休日(日曜日)
TEL. 075(231)0510 FAX. 075(221)5987
地下鉄東西線市役所前駅下車 5 番出口
http://www.kyukyodo.co.jp

京筆・京文房
りゅう し どう
龍芳堂

京都 〒604-0916 京都市中京区寺町通二条上ル
TEL.075-252-4120 FAX.075-252-0006
東京 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋四丁目六の二
東洋美術印刷本社ビル一階
TEL.03-3239-0733 FAX.03-3239-0731

文具四寶 (筆・墨・硯・紙) 和紙工芸品 書画作品
書芸サロン 賛交

二条店 〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入北側
TEL・FAX：075-222-0390
E-mail：info@shoga-sankou.co.jp
URL：http://www.shoga-sankou.co.jp
株式会社 賛交社 本社 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町 27
TEL：075-572-8964／FAX：075-572-8905

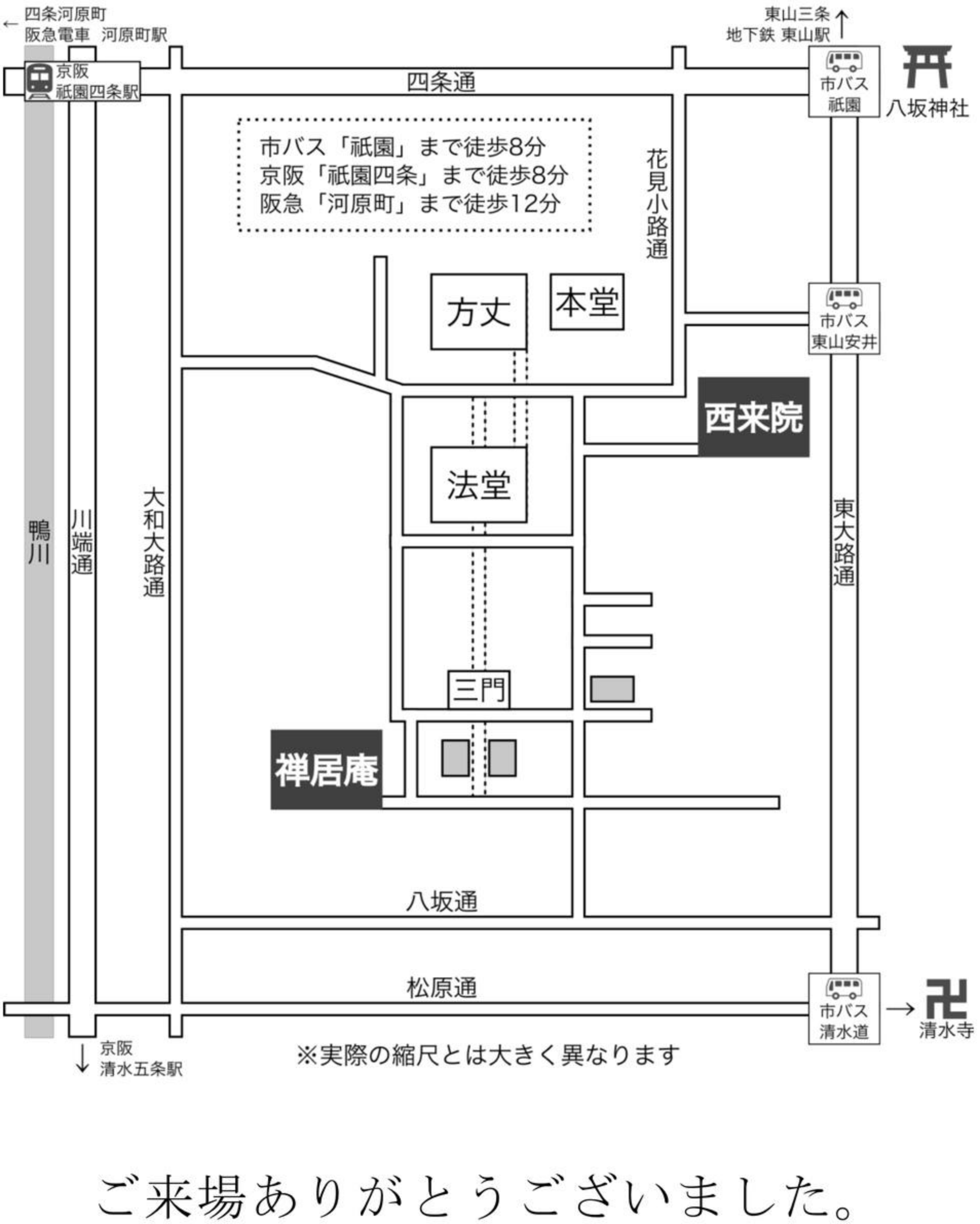
かな料紙・京染和紙
加工紙・画仙紙・半紙他
書道用和紙の専門店
紙の津久間

京都市下京区新町通花屋町下ル
TEL (075) 371 - 8186 (代)
FAX (075) 371 - 8189

墨筆硯紙 書道用品一式
京都 古梅園

〒604-0916
京都市中京区寺町二条上る
TEL(０７５)２３１－１５３１
FAX(０７５)２３１－０２７２

—建仁寺案内図・周辺地図—



ご来場ありがとうございました。

京都大学書道部



This book was
made by the LeME